

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

教育の質の向上及び継続的な改善を目的として、委員会組織及び校務実施体制(資料 9-1-①-1)、運営規則、分科会規則、部会規則(資料 9-1-①-2)に示すように、自己点検評価・改善委員会の下に点検評価部会、教育改善フォローアップ部会、教員表彰選考部会、教務委員会の下に専攻科分科会、複合型生産システム工学プログラム推進部会(以下「JABEE部会」と称す)、FD部会を整備している。

教育活動に関するデータや資料は、各学科、専攻科から教務委員会、専攻科分科会及び自己点検評価・改善委員会に提出され、点検が行われ、担当課や担当室に蓄積されている。これらの資料を基に資料 9-1-①-3に示される体制で評価が行われている。

教務委員会及び専攻科分科会では、各課程のシラバス、答案、進級・卒業(修了)判定の資料など、自己点検評価・改善委員会では、学生による学習達成度評価、各委員会の自己点検評価の資料などを収集・蓄積している(資料 9-1-①-4)。なお、平成22年度分以降の答案保管は、電子データとしても保管ができたようになった。これは教職員提案制度によって優秀な提案として採択された答案保管の電子データ化によるものである(資料 9-1-①-5~7)。授業実施記録では、授業毎に記録をつけ(半期では15回分、通年では30回分)、シラバスに沿った授業が実施されているか自己評価することができる(資料 9-1-①-8)。これらの資料は、学生課や保管室などに保存している。

点検評価部会とJABEE部会からなる合同部会(以下「合同部会」と称す)によって、学校の構成員及び学外関係者に対するアンケート調査の実施、機関別認証評価の自己評価書、JABEE自己点検書、中期計画自己点検評価報告書の作成等を行っている(資料 9-1-①-9)。

FD部会では、学生による授業アンケートおよびアンケート改善報告、教員による公開授業のアンケート結果を保管している(資料 9-1-①-10~12)。

教員表彰選考部会では、学生による教員評価や教員による相互評価等に基づいた顕彰者を推薦している(資料 9-1-①-13, 14)。

教員は教育・研究活動報告書を提出している(資料 9-1-①-15, 16)。

各委員会等は、本校の中期目標・中期計画に基づく年度計画(資料 9-1-①-17)にしたがって、年2回活動報告をしている(資料 9-1-①-18)。

以上のように、本校独自のPDCAサイクル(資料 9-1-①-19)に則り実施されている。

資料 9 - 1 - ① - 2

運営規則 (抜粋)

別表第 1 (第 4 条第 1 項関係)

区分	任 務	組 織	事務担当
自己点検評価・改善委員会	<p>本校の評価(複合型生産システム工学プログラムの評価を含む。以下同じ。)の基本方針を検討するとともに、次の各号に掲げる評価の実施に関する事項を審議する。</p> <p>(1)実施計画に関すること (2)点検、評価及び改善に関すること。 (3)公表に関すること (4)その他評価に関し、必要な事項</p>	<p>(1)校長 (2)主事及び専攻科長 (3)教養教育科長及び学科長 (4) 事務部長 (5) その他校長が必要と認められた者</p>	総務課

別表第 2 (第 4 条第 2 項関係)

区 分	任 務	組 織	委員長	事務担当
教務委員会	<p>学科及び専攻科の教育計画(複合型生産システム工学プログラムを含む。)の立案その他教務に関し、校長から諮問された事項及び専攻科の運営並びに教務主事又は専攻科長が必要と認められた事項を審議する。</p>	<p>(1)主事及び専攻科長 (2)教務主事補 (3)教養教育科長、学科長及び専攻科主任 (4)JABEEプログラム責任者 (5)教科責任者 (6)実習センター長、情報処理センター長、教育研究支援センター長及び学生支援室長 (7)学生課長 (8)その他校長が必要と認められた者</p>	教務主事	学生課

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 運営規則)

資料 9 - 1 - ① - 2 続き

分科会規則（抜粋）

別表

委員会等の 名称	分科会の名称	任 務	組 織	委員長	事務担当 者
教務委員会	専攻科分科会	(1) 専攻科の運営に関するこ と。 (2) 専攻科における教育計画 の立案に関すること。 (3) 専攻科に係る長期インタ ーシップに関すること (4) 複合型生産システム工学 プログラム修了の確認に 関すること。 (5) その他校長、委員長又は 専攻科長が必要と認めた 事項	(1) 専攻科長 (2) 専攻主任及 び専攻副主任 (3) J A B E E プログラム責 任者 (4) 複合型生産 システム工学 プログラム推 進部会長 (5) 学生課長 (6) その他校長 が必要と 認めた者	専攻科長	学生課

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 分科会規則)

資料 9 - 1 - ① - 2 続き

部会規則 (抜粋)

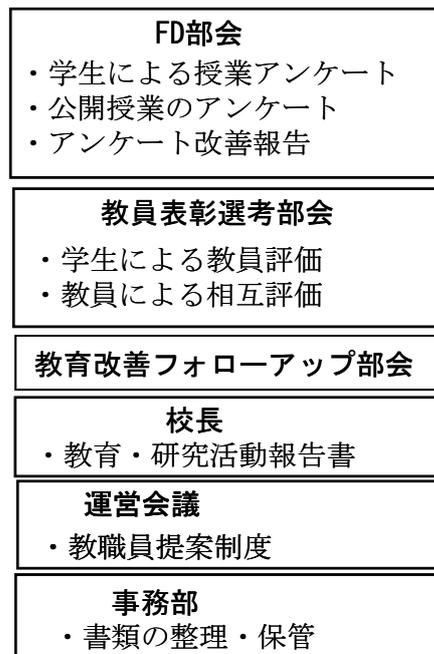
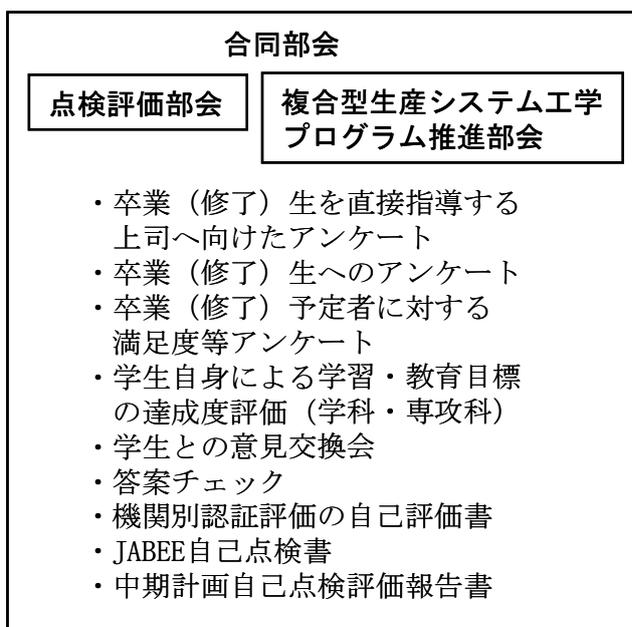
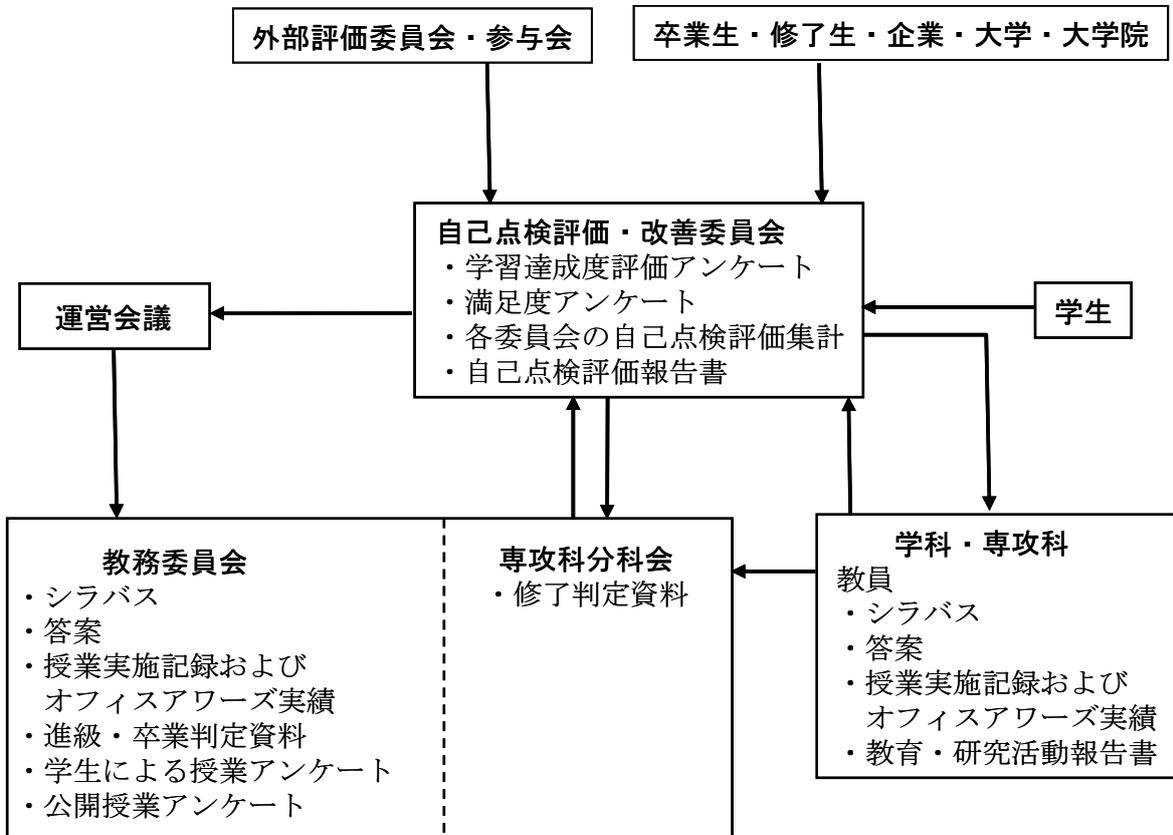
別表

委員会等	部会の名称	任 務	事務の担当課
将来計画検討委員会	将来構想部会	将来構想及び中期計画に関すること。	総務課
自己点検評価・改善委員会	点検評価部会	自己点検・評価、外部評価、認証評価及び複合型生産システム工学プログラム評価に関すること。 (教育・研究・施設・管理運営等)	総務課
	教育改善フォローアップ部会	教育(教育システムを含む。)の改善に関すること。	学生課
	教員表彰選考部会	教員の表彰の選考に関すること。	総務課
教務委員会	複合型生産システム工学プログラム推進部会	複合型生産システム工学プログラムの企画及び実施に関すること。	学生課
	FD部会	FDの実施に関すること。	学生課
	情報教育部会	情報教育に関すること。	情報処理センター及び学生課
	創造活動プロジェクト	創造教育・技術者教育に関すること。 (ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト又はソーラーカーレースへの参加支援及び燃料電池プロジェクトに関すること。)	学生課

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 部会規則)

資料 9 - 1 - ① - 3

データや資料の収集, 評価を実施する体制



(出典 自己点検評価・改善委員会資料)

資料 9-1-①-4

表 教育活動に係るデータ、資料の管理

教育活動に関するデータ、資料	収集担当委員会	蓄積場所
学生成績表	教務委員会	学生課
進級・卒業判定の資料	教務委員会	学生課
修了判定の資料	教務委員会	学生課
シラバス	教務委員会	学生課
答案(チェックリスト, シラバス, 答案保管票, 成績評価シート)	教務委員会	J A B E E 準備室(紙媒体), 学生課(電子データ)
学生による授業アンケート	FD部会	学生課
公開授業のアンケート	FD部会	学生課
アンケート改善報告	FD部会	学生課
学生による学習・教育目標の達成度評価	合同部会	学生課
卒業(修了)生を直接指導する上司へ向けたアンケート	合同部会	学生課
学科卒業予定者に対する満足度アンケート	合同部会	学生課
専攻科修了予定者に対する満足度アンケート	合同部会	学生課
学生による教員評価	教員表彰選考部会	学生課
教員による相互評価	教員表彰選考部会	総務課
機関別認証評価の自己評価書	合同部会	総務課
JABEE自己点検書	合同部会	総務課
中期計画自己点検評価報告書	合同部会	総務課
学生との意見交換会	点検評価部会	総務課
教育・研究活動報告書	校長	総務課
教職員提案制度	運営会議	総務課

(出典 合同部会資料 抜粋)

答案等の保管に当たっての留意事項

I JABEE 受審用「可」答案等の保管について

学科第 4 学年以上の答案は、以下の項目に留意し、2 寮の JABEE 準備室に保管して下さい。

1. 保管の対象となる答案は、最終成績が「可」と評価された学生の答案ではなく、「試験ごとに『可』の得点範囲（64～60 点）と採点された答案」である。
2. 定期試験（前期末試験，学年末試験）のすべての「可」答案（64～60 点の答案原本あるいは鮮明なコピー・PDF 形式の電子データ印刷物）及び最高点の答案 1 名分（答案原本あるいは鮮明なコピー・PDF 形式の電子データ印刷物）は必ず保管する。「可」答案がない場合は、合格最低レベルの答案を 3 名分程度保管する。また、「中間試験」の答案も保管することが望ましい。
3. 試験以外のレポートや小テストなどに大きな重み（30%以上が目安）をつけて評価している場合は、その代表的な成績物の合格最低レベルのものを保管する（実験・実習科目なども該当する）。
4. 追認試験については、すべての合格答案を保管する。
5. 成績評価シートは、シラバスに記載された成績評価方法と実際の成績評価方法が一致していることを明確に示すような内容とする（成績評価シート__例__通年（半期）を参照）。また、保管した答案に対応する得点にマーク・色付きにするなど、JABEE 審査員が短時間で審査できるよう工夫する。
6. 試験問題には、シラバスに記載した [この授業で習得する「知識・能力」] の番号、及び配点を明記する。
7. 答案保管のファイルには、上から順に「答案保管自己点検表」、「試験答案保管票」、「シラバス」、「成績評価シート」、「試験問題・模範解答」、「すべての「可」答案及び最高点の答案 1 名分」を綴じる。

資料 9 - 1 - ① - 5 続き

II 学科 1～3 学年を含むすべての答案の保管について

学科 1～5 学年及び専攻科の中間試験及び定期試験の答案については、以下の項目に留意し、すべての答案等を [PDF 形式の電子データで保管](#)あるいは紙ファイルに綴じて下さい。

[PDF 形式の電子データの保管方法は、「答案・成績等電子データ保管サーバ利用ガイド」をご参照下さい。](#)

紙ファイルは 2 寮の JABEE 準備室に保管して下さい。

1. 学科第 1～3 学年については、第 4 学年以上のように「可」答案を抜き出す必要はない。
2. 「JABEE 審査用に抜き出した「可」答案等のコピーを紙ファイル側に保管する」という、平成 20 年度までの申し合わせは廃止する。(平成 21 年度教務委員会決定事項)
3. 試験問題の項目ごとに、シラバスに記載した [この授業で習得する「知識・能力」] の番号、及び配点が明記されていること。
4. 中間試験、定期試験ごとに、「試験問題・模範解答」及び「試験答案」を [PDF 形式の電子データで科目名のフォルダに保管](#)あるいは紙ファイルに綴じる。紙ファイルは表紙・背表紙に科目名等を明記したシールを貼る。[追認試験及び再・追試験についても同様に取扱う](#)。なお、「シラバス」及び「成績評価シート」は、[PDF 形式の電子データは科目名のフォルダに保管](#)し、紙ファイルでは最終回の試験（学年末試験または前期末試験）と一緒に綴じる。

III 答案保管用ファイルについて

保管用ファイル及び表紙・背表紙シール等は学生課にあります。以下の分類に従い、保管して下さい。

(1) A 4 版ドッチファイル (JABEE 受審用「可」答案等)

ブルー (学科)

グレー (専攻科)

(2) A 4 版フラットファイル (紙ファイル)

- ・機械工学科 グレー
- ・電気電子工学科 イエロー
- ・電子情報工学科 ピンク
- ・生物応用化学科 グリーン
- ・材料工学科 ブルー
- ・一般科目 ピンク (赤マーク付き)
- ・電子機械工学専攻 グレー (青マーク付き)
- ・応用物質工学専攻 グリーン (緑マーク付き)

(出典 教務委員会資料)

資料 9-1-①-6

教職員提案制度の実施について（通知文書）

平成 22 年 9 月 27 日

教職員各位

校長 高橋 誠記

平成 22 年度教職員提案制度の実施について（通知）

今年度も、教職員提案制度実施要項（以下「実施要項」という。）に基づき、提案制度を実施することとします。

ついては、その実施にあたっては、実施要項に基づき、下記のとおり取り扱うこととしますので、その趣旨を十分にご理解いただき、提案方お願いします。

記

1. 提案制度の趣旨

本校の提案制度は、教職員から、教育研究、学生支援、事務等に関する着想、改善意見、考案等を積極的に募集し、採用することによって、教職員の業務の効率・活性化への積極的な参加の途を拓き、士気の高揚、人間関係の良好化を図るとともに、教職員の能力の活用、開発をすることによって、合理的、発展的業務改善の一助にしようとするものである。

2. 提案の提出方法と募集期間

(1) 提案者

本校の教職員とする。この場合、学科・課（技術室含む）単位又は数名のグループで提出しても差し支えない。

(2) 提出時期及び提出場所

提案は、別記提案用紙により、下記募集期間内に総務課総務係に提出する。

(3) 募集期間

11月9日（火）まで

(4) 決定及び公表

12月運営会議において審査し、校長が決定する。公表は、学内専用ウェブサイトに掲載することとする。

別記様式

提 案 用 紙

提案日 平成 22 年 月 日

提案者 所属氏名		

提案名					
提案内容別分類（あなたの提案の主な着眼点を一つ選んで数字を○印で囲んでください。）					
1 管理運営面 における事案	2 教育研究活動 面における事 案	3 産学官連携・ 地域貢献面 における事案	4 学生支援面 における事 案	5 事務処理部 門における 事案	6 その他
提案内容（現状の問題点、改良点、期待される効果等）					

- (注) 1 グループで提案する場合には、その代表者に○印を付けて下さい。
 2 図示可能なものは、任意の用紙で図示してください。

(出典 総務課資料)

平成 22 年度教職員提案一覧表

伊勢型紙を利用した学校のPR
学内コンビニエンスストアの誘致(教職員宿舍地区の不利用土地の有効活用)
法人カードを用いた図書・論文の購入
年間行事予定 & 備品予定表
通学時におけるスクールバスの活用
答案のPDFによる保管
地域と密着した鈴鹿高専駅前サテライトキャンパスの常時開設
情報処理センターの研究機能の拡充
正門への電光掲示板設置
学校名等をPRするバックパネルの制作と設置
工作マインド育成イベント案「模型カーレースin鈴鹿高専」
自動ロボカーレース in suzuka
学生個人への連絡に、鈴鹿高専のメールアドレスの積極的利用
主事の選任に選挙を取り入れる
技術職員の人事交流をすすめる —鳥羽商船高専との連携事業の一環として—
静電気技術サテライトラボの開設 —— 地域中小企業と業界企業との接点 ——
導電性紙/樹脂等をつかった理科教材の開発 —— 静電気対策技術の応用による未来の技術者育成——
静電気ワークショップと次世代静電気対策技術シンポジウム —— 鈴鹿産学官連携による即戦力に繋がる技術者教育——
サイエンスカフェの開催 ——モチベーションと課題発見解決能力の向上——
図書館蔵書の整理

(出典 平成 22 年度 1 2 月教職員会議資料 抜粋)

授業実施記録 (教養科目)

平成23年度 授業実施記録

氏名 クラス 4ECS 科目名 英語ⅣA

日	授業の内容
4月12日	第1回:学習の進め方 / TOEICについて
4月19日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 1(Topic: 交通と情報案内)問題演習
4月26日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 2(Topic: 指示と説明)問題演習
5月10日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 3(Topic: 飲食)問題演習
5月17日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 4(Topic: ビジネス)問題演習
5月24日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 5(Topic: 通信・コミュニケーション)問題演習
5月31日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 6(Topic: 社交)問題演習
6月7日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 1～6 Review
6月14日	前期中間試験(Unit 1 ～ Unit 6)
6月21日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 7(Topic: 招待・案内)問題演習
6月28日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 8(Topic: 医療・保険)問題演習
7月5日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 9(Topic: 文化・娯楽)問題演習
7月12日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 10(Topic: 買い物)問題演習
7月19日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 11(Topic: 運動・フィットネス)問題演習
9月6日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 12(Topic: トラブル・申請)問題演習
9月13日	Start-up Course for the TOEIC Test Unit 7～12 Review
10月4日	英語長文17選 Lesson 1(論説文:環境・エネルギー)問題演習
10月11日	英語長文17選 Lesson 2(論説文:人生・生き方)問題演習
10月18日	英語長文17選 Lesson 3(論説文:経済・ビジネス)問題演習
11月1日	英語長文17選 Lesson 4(論説文:社会問題)問題演習
11月8日	英語長文17選 Lesson 5(エッセイ:言語・コミュニケーション)問題演習
11月15日	英語長文17選 Lesson 6(論説文:論説文:社会問題)問題演習
11月22日	英語長文17選 Lesson 7(エッセイ:メディア・コンピュータ)問題演習
11月29日	英語長文17選 Lesson 1～7の復習とポイント確認
12月6日	後期中間試験(Lesson 1～7)
12月13日	英語長文17選 Lesson 8(エッセイ:文学)問題演習
12月20日	英語長文17選 Lesson 9(手紙文:教育・学問)問題演習
1月17日	英語長文17選 Lesson 10(会話文:教育・技術)問題演習
1月24日	英語長文17選 Lesson 11(物語・小説:自然・生物)問題演習
1月31日	英語長文17選 Lesson 12(伝記:教育・学問)問題演習
2月7日	英語長文17選 Lesson 13(エッセイ:日常生活)問題演習

資料 9 - 1 - ① - 8 続き

授業実施記録 (学科専門科目)

平成23年度 授業実施記録

科目名 4E電気回路

日	授業の内容
4/11	ひずみ波の定義、例、フーリエ級数の定義、演習
4/18	フーリエ級数の係数の求め方、どうやって求めるのかと三角関数の加法定理
4/25	特殊な形のひずみ波のフーリエ級数の係数 (対称波、奇関数、偶関数)
5/9	特殊な形のひずみ波のフーリエ級数の係数(対称波と奇関数、対称波と偶関数)と演習問題
5/16	ひずみ波の実効値(定義と演習)、定義の積分からも実効値を求めてみる
5/23	ひずみ率(定義と演習)とひずみ波の電力(定義と演習)
5/30	ひずみ波の取り扱いについて(無視する、フーリエ級数を用いる、ひずみ波の等価正弦波)
6/6	総合演習問題
6/13	前期中間試験
6/20	前期中間試験復習、過渡現象とR-L直列回路(直流電圧印加、微分方程式の2通りの求め方)
6/27	R-L直列回路の続き(直流電圧除去、交流電圧印加)
7/4	R-C直列回路(直流電圧印加、直流電圧除去)
7/11	R-C直列回路の続き(交流電圧印加)と時定数
9/5	R-L-C回路(直流電圧印加・除去)とダンピング抵抗について
9/8	R-LとR-Cの複雑な回路の過渡現象の演習問題
	前期末試験(9/26)
10/7	前期末試験の復習とラプラス変換による解法1基本的な回路(R-LとR-C)
10/14	ラプラス変換による解法1の続き(R-C)と解法2相互誘導回路
10/28	ラプラス変換による解法3RLC直列回路と演習問題
11/4	ラプラス変換によるオシロスコープのプローブ
11/11	ラプラス変換によるオシロスコープとプローブ演習問題
11/18	方形波の過渡現象
11/25	総合演習問題
	後期中間試験(12/6)
12/9	後期中間試験の復習
12/16	工場見学旅行
1/12	四端子回路網についての紹介と様々な行列式
1/20	様々な行列式の相関(YとF行列)とそれらの演習問題
1/27	等価回路(直路、分路)、等価回路(L型、T型、 π 形)とその演習問題
2/3	分布定数回路(基本方程式)
2/10	分布定数回路(基本方程式の続き)と演習問題
	学年末試験(2/17)

授業実施記録 (専攻科の科目)

平成23年度 授業実施記録

科目名 2DBセンサ工学

日	授業の内容
10/6	人間からロボットへ、センサの定義
10/13	光センサの種類、フォトダイオード
10/20	ホトランジスタ、CCDイメージセンサ
10/27	CdSセル、光電管、焦電形赤外線センサ
11/10	誘導起電力形センサ、センサと指示計器の違い、磁電効果、ホールセンサ
11/17	磁気抵抗素子、磁気インピーダンス素子
11/24	磁気センサの応用例
12/1	中間試験
12/8	中間試験の確認、冬季課題について、圧力センサ
12/15	振動センサ、振動スイッチなどの紹介
1/12	測温抵抗体、サーミスタ、感温フェライト
1/19	IC温度センサ、赤外線センサ、熱電対、冬季課題の紹介
1/26	位置センサ、超音波センサ
2/2	振動センサ
2/9	湿度センサ、ガスセンサ、センサの魅力について
2/16	学年末試験

(出典 平成23年度授業実施記録およびオフィスアワーズ実績 抜粋)

資料 9 - 1 - ① - 9

平成 2 2 年度「学生との意見交換会」(抜粋)

依頼文書

専攻科長, 学科長 各位

(CC: 自己点検評価・改善委員長 (学校長), 教務主事, 点検評価部会・JABEE 部会員 各位)

毎年, この時期に点検評価部会よりお願いしております標記の「学生との意見交換会 (学科によっては, アンケート形式の意見聴取)」を, 各科の点検評価部会員・JABEE 部会員とご相談の上, 1 月末を目途に意見交換会を開催していただきますようお願いいたします。

意見交換会の内容は専攻科, 各学科独自のものです。J A B E E と機関別認証評価の基準に関連して, 下記の項目については必ず学生の意見・要望を聞いていただきますようお願いいたします。

1. 学習・教育目標の内容について
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス, オフィスアワーズ, 授業アンケート, 資格・検定試験受験, 進路指導など)について
3. 教育環境について学生を支援するシステム(学級担任制, 学生相談室, 厚生施設, 学寮, 図書館, 自主学习スペース, コンピュータなど)について
4. 教育に対する学生の満足度

意見交換会の実施に当たっては, 学生からの発言 (要望等) および教員の発言は, 必ず記録していただき, 1 月末を目途に添付ファイルにて, 点検評価部会長 長原 までご提出ください。

また, 学生の要望を取り入れて改善した事項, あるいは改善する予定の事項がございましたら, 併せてお知らせいただきますようお願いいたします。

ご多忙のところ恐縮ですが, 重ねてお願い申し上げます。

(出典 合同部会資料)

資料 9 - 1 - ① - 10

授業アンケートの実施について（依頼文書）

平成 22 年 6 月 28 日

各科授業担当教員 各位

教 務 主 事

F D 部 会 長

平成 22 年度前期授業アンケートの実施について

今年度も授業アンケートを実施いたします。下記のとおり宜しくご協力をお願いいたします。

記

1. 実施時期

- (1) 全授業科目について、授業アンケートは7月1日（木）から7月16（金）の期間で実施をお願いいたします。
- (2) 上記期間を原則としますが、半期を複数教員でもつ分担科目、あるいは実験科目で実験がまだ始まっていない場合等については、アンケート実施期間を上記にとらわれず適宜実施してください。
- (3) 専攻科科目などで、受講生が5名未満の科目については実施しなくても良いとします。

2. 実施方法

教務係へ事前、又は授業前に、用紙、封筒を取りに来ていただき、封筒の表の欄に科目、クラス等の記入をしてください。

授業開始後の10分間程度でアンケートを実施してください。

室長又は副室長（合併授業については責任者を別途指名してください。）が回収し、教務係へ提出するよう指示願います。（この旨、教室掲示にて学生に通知しています。）

（出典 学生課資料）

資料 9-1-①-11

公開授業の実施について（依頼文書）

平成 23 年 1 月 11 日

教 員 各 位

教 務 主 事
F D 部 会 長

平成 22 年度 公開授業の実施について

本年度も公開授業を実施しますので、下記のとおり宜しくご協力をお願いいたします。

記

1. 公開授業期間は平成 23 年 1 月 18 日（火）から 1 月 31 日（月）で、対象は常勤教員の全授業科目です。関係書類は以下のフォルダにあります。

file://¥¥Aspen¥all¥share¥資料¥FD¥公開授業 H22 年度

2. 授業アンケートで高い評価を得ている授業科目の一覧が上記フォルダにありますのでご参照ください。（教職員のみ公開ということですので、取扱いにご注意ください。）
なお、非常勤講師の先生が担当されている授業科目のうち、一覧中で網かけのある科目、一覧に記載されていない科目については、了承を得ていませんので、参観をご遠慮願います。
網かけの無い科目については、授業公開の了承を得ています。

3. 先生方は、期間中に最低 2 回授業を参観し、上記フォルダにある「公開授業アンケート用紙」に記入して、教務係へ提出願います。用紙は教務係から当該授業担当教員へ返却いたします。
なお、期間の終わり頃に参観が集中しないよう、ご配慮をお願いいたします。

4. 公開授業実施教員にご意見がありましたら、上記フォルダの公開授業メッセージ用紙にご記入のうえ、実施教員にお渡しください。

（出典 学生課資料）

資料 9-1-①-12

平成 23 年度公開授業アンケート提出数

学科	提出数
教養教育	52
機械工学	16
電気電子工学	18
電子情報工学	20
生物応用化学	22
材料工学	18
計	146

（出典 学生課資料）

平成 23 年度 学生による教員評価

アンケート用紙

23. 10

一般科目	該当者	主な理由
西岡 将美		
久留原昌宏		
石谷 春樹		
奥 貞二		
小倉 正昭		
安富 真一		
伊藤 清		
堀江 太郎		
川本 正治		
大貫 洋介		
篠原 雅史		
田村陽次郎		
山崎 賢二		
仲本 朝基		
丹波 之宏		
三浦 陽子		
細野 信幸		
船越 一彦		
森 誠護		
出口 芳孝		
中井 洋生		
林 浩士		
Lawson Michael		
日下 隆司		
松尾 江津子		

M科	該当者	主な理由
埜 克己		
佐脇 豊		
末次 正寛		
近藤 邦和		
民秋 実		
藤松 孝裕		
白井 達也		
白木原香織		
打田 正樹		
南部 紘一郎		

E科	該当者	主な理由
北村 登		
花井 孝明		
近藤 一之		
大津 孝佳		
奥田 一雄		
川口 雅司		
辻 琢人		
西村 一寛		
柴垣 寛治		
奥野 正明		
山田 伊智子		

I科	該当者	主な理由
桑原 裕史		
井瀬 潔		
長嶋 孝好		
伊藤 明		
田添 文博		
渥美 清隆		
箕浦 弘人		
平野 武範		
青山 俊弘		
森 育子		
浦尾 彰		
和田 孝之		

C科	該当者	主な理由
内藤 幸雄		
生貝 初		
澤田 善秋		
長原 滋		
下野 晃		
山本 智代		
高倉 克人		
山口 雅裕		
淀谷 真也		
小川亜希子		
甲斐 穂高		
船越 邦夫		
冨澤 好太郎		

S科	該当者	主な理由
井上 哲雄		
宗内 篤夫		
江崎 尚和		
小林 達正		
兼松 秀行		
下古谷博司		
南部 智憲		
和田 憲幸		
黒田 大介		
万谷 義和		
幸後 健		

- 自分の属する専門学科の先生の中で、良いと思う先生 **3名** に○をつけ、A～Eのうちから該当理由をひとつ選び記入する。
- 一般科目または他学科の先生の中で、良いと思う先生 **5名** に○をつけ、A～Eのうちから該当理由をひとつ選び記入する。

「良いと思う先生の該当理由」

- A 教育に熱心な先生
- B 分かりやすく教えてくれる先生
- C 勉強の意義を良く教えてくれる先生
- D 人生に夢を抱かせてくれる先生
- E 部・サークルの指導、生活指導に熱心な先生

- 上記以上数の○をつけると **無効** になる。

(出典：学生課資料)

資料 9-1-①-14

平成 23 年度 教員による相互評価

平成 23 年 10 月 12 日

教員各位

校長

教員による相互評価の提出について（依頼）

このことについて、高専機構の教員顕彰等の一環として別添のとおり実施しますので、よろしく願います。

（別添資料）

教員による相互評価について

1、評価方法

教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等に積極的に取り組んでいる本人以外の複数の教員の氏名を記入してください。

2、実施方法

（1）全教員を対象とし、3名連記のうえ投票してください。

（2）投票については、原則として無記名とし、該当部分を10月19日（水）17時までに投票願います。

投票箱は、総務課に設置しております。投票の際は、総務課職員にお声をかけていただいでから投票願います。

（出典 総務課資料）

資料 9-1-①-15

平成 23 年度教育・研究活動報告書について（依頼文書）

平成 23 年 10 月 11 日

教員各位

校長

平成 23 年度教育・研究活動報告書の提出について（依頼）

このことについて、各教員の教育・研究活動等を把握し、今後の学校運営及び教育の改善等に反映したいと考えていますので、別添報告書を作成のうえ、11月1日（火）までに総務課長又は課長補佐（庶務系）へ提出願います。

なお、同報告書については、高専機構の教員顕彰候補者推薦の参考資料とさせていただきますので、念のため申し添えます。

（出典 総務課資料）

教育・研究活動報告書の様式 (抜粋)

(様式)

平成23年度教育・研究活動報告書	学科等・職名	氏名

校務分担	現状	学級担任等	クラブ等部長等	各種役職・委員等	その他・備考
	補足	過去5年間の状況※ ①3回以上 ②2回 ③1回	年間活動時間(見込み)※ ①120時間以上 ②80時間以上120時間未満 ③40時間以上80時間未満 ④あまり活動していない ⑤全く活動していない	過去5年間の状況と期間	

I. 教育活動状況

授業	持ちコマ数(卒業研究、特別研究等、特活を除く。) 1コマ=95分									
	学 科	前期	後期	専攻 科	前期	後期	合 計	前期	後期	総合計

1. 授業評価について(必須)

過去1年間の授業評価で、(1)①最も点数の高かった項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、(2)①最も点数の低かった項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、(3)①前の評価より最も高い伸びを示した項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、を簡潔に記述してください。

	項目※	点数	授業科目	理由
(1) 最高点				
(2) 最低点				
(3) 上昇点				

※項目は、アンケートの番号を記入。1.言葉、2.板書、3.進行、4.工夫、5.質問、6.魅力、7.成績、10.理解度

2. 学科対象の教育研究指導について(必須)

授業や卒業研究について、年度当初目標としたこと(例:シラバスの実施、授業アンケートの向上、その他)、その達成状況、来年度の抱負、今後の課題その他の特記事項について簡潔に記述してください。

--

3. 専攻科対象の教育研究指導について(必須)

授業や特別研究について、年度当初目標としたこと(例:シラバスの実施、授業アンケートの向上、その他)、その達成状況、来年度の抱負、今後の課題その他の特記事項について簡潔に記述してください。

--

3. 補講、セミナー、出前授業等(任意)

年度当初の目標、その達成状況、来年度の抱負、今後の課題その他の特記事項について簡潔に記述してください。

--

4. ①学級担任、②学生指導、③寮務、④クラブ等指導、⑤教育面の地域貢献、⑥役職活動(選択的必須)

①~⑤のうち、1項目以上を選択して、年度当初の目標、その達成状況、来年度の抱負、今後の課題その他の特記事項について簡潔に記述してください。(留学生指導、学生相談、特に指導した学生、保護者懇談等での話題等を含む)

--

II. 研究活動状況

1. 研究活動の状況(必須)

研究テーマ、研究内容について、年度当初目標としたこと(科研費その他の競争的資金の獲得、論文、著書等を含む)、その達成状況、来年度の抱負、今後の課題やその他の特記事項について、簡潔に記述してください。

--

(出典 総務課資料)

本校の中期目標（抜粋）

中期目標（第1期）	中期目標（第2期）
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム 高専教育の特色である「くさび型教育」を踏まえた教育方法の改善を進めるとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)の基準を満たす教育プログラム(複合型生産システム工学)を実施し、社会が求める教育内容・水準の維持向上を図るため、継続的な点検・評価・改善を図る。</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム 高専教育の特色である「くさび型教育」を踏まえた教育方法の改善を進めるとともに、日本技術者教育認定機構(JABEE)の基準を満たす教育プログラム(複合型生産システム工学)を実施し、社会が求める教育内容・水準の維持向上を図るため、継続的な点検・評価・改善を図る。</p>

中期計画（第1期）	中期計画（第2期）
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ア 新たな教育教材を研究開発するため、他高専の協力を得て、自然科学系科目の e-learning 教材を開発し、その学習効果等を評価する。</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム ア 新たな教育教材を研究開発するため、他高専の協力を得て、自然科学系科目の e-learning 教材等を開発し、教材として活用しながらその効果等を評価する。 イ <u>JABEE の認定プログラムを改善を加えつつ実施し、不断に教育の質の向上を図る。</u> ウ <u>多様な方法で学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。</u></p>

中期計画（第1期）	中期計画（第2期）
<p>イ 教育目標を達成するため、とくに英語教育、情報教育、創造教育の改善を目的としたカリキュラム改定・再編を行う。 ウ 外部評価、認証評価、JABEE 審査等の第三者評価に積極的に取り組み、持続的な教育改善を図るとともに、教員の教育、研究、社会貢献等の活動に関するデータベースを構築・整備する。</p> <p>エ インターンシップの内容と方法を見直し、その一層の充実を図る。 オ 研究フォーラム、研究集会、シンポジウム等に積極的に参加し、研究成果を発表するとともに他校との教員交流を促進する。また、産学官連携等の地域における共通の問題を解決するため、近隣の大学等との連携・協働を推進する。</p>	<p>エ <u>教育目標を達成するため、とくに英語教育、情報教育、創造教育の評価を行い改善を進める。</u> オ <u>外部評価、認証評価、JABEE 審査等の第三者評価に継続的に取り組み、持続的な教育改善を図る。</u> カ <u>教員の教育、研究、社会貢献等の活動に関するデータベースを充実し教育の質の改善に活用する。</u> キ <u>企業の退職技術者等、意欲ある企業人材を活用した教育体制を構築する。</u> ク インターンシップの内容と方法を見直し、その一層の充実を図る。 ケ <u>教育研究フォーラムやシンポジウム等に積極的に参加し、研究成果を発表するとともに他校との教員交流を促進する。</u> コ <u>技術者教育等の地域における共通の問題を解決するため、近隣の大学等との連携・協働を推進する。</u></p>

(出典 総務課資料)

平成 22 年度委員会等活動報告会

平成 23 年 2 月 15 日

各委員会委員長 各位
(各部部长、分科会長、各センター長、
委員会等庶務担当者 各位)

自己点検評価・改善委員会委員長
「平成 22 年度委員会等活動報告会」の報告作成について (依頼)

本年度も残り僅かとなりましたが、各委員長等におかれましては、校務等お忙しい中、本校の運営、教育等にご尽力いただきありがとうございます。

さて、本年度も下記のとおり各委員会等活動報告会を開催しますので、各委員会等の活動状況について自ら評価を行い、報告をご記入いただきますようお願い申し上げます。

記

1. 報告会開催予定

日時：平成 23 年 3 月 18 日 (金) 15 : 30 ~

場所：視聴覚室

2. 報告記入方法

下記 URL に各委員会・部会等において担当する評価指標フォルダへのリンクがありますので、EXCEL ファイルの「CHECK」シートへ報告をご記入願います。(これを報告会の資料とします。)

file://Aspen/all/share/資料/自己点検評価/担当毎リンク

※ EXCEL ファイルを開く際は、「マクロを有効にする」をクリック願います。

※ 年度計画にない事項についても、報告がありましたらご記入願います。

3. 提出期限

平成 23 年 3 月 11 日 (金)

EXCEL ファイルを更新し、その旨を総務課・企画調査係 (田中) までご連絡願います。

4. 資料ファイルの保存

平成 21 年 8 月 18 日付けメールにて依頼しておりますが、毎年の自己点検評価を行うに伴い、認証評価・JABEE 等、各種評価に関する資料をコンピュータ可読形式で蓄積し、多角的評価に容易に対応できるように資料集を構築していこうとするものです。各委員会等におかれましては、担当する評価指標に関して収集すべき資料が、EXCEL ファイルの「資料」シートに記載されていますので、ご確認いただき、年度末までに「資料」フォルダへ保存していただきますようお願い申し上げます。

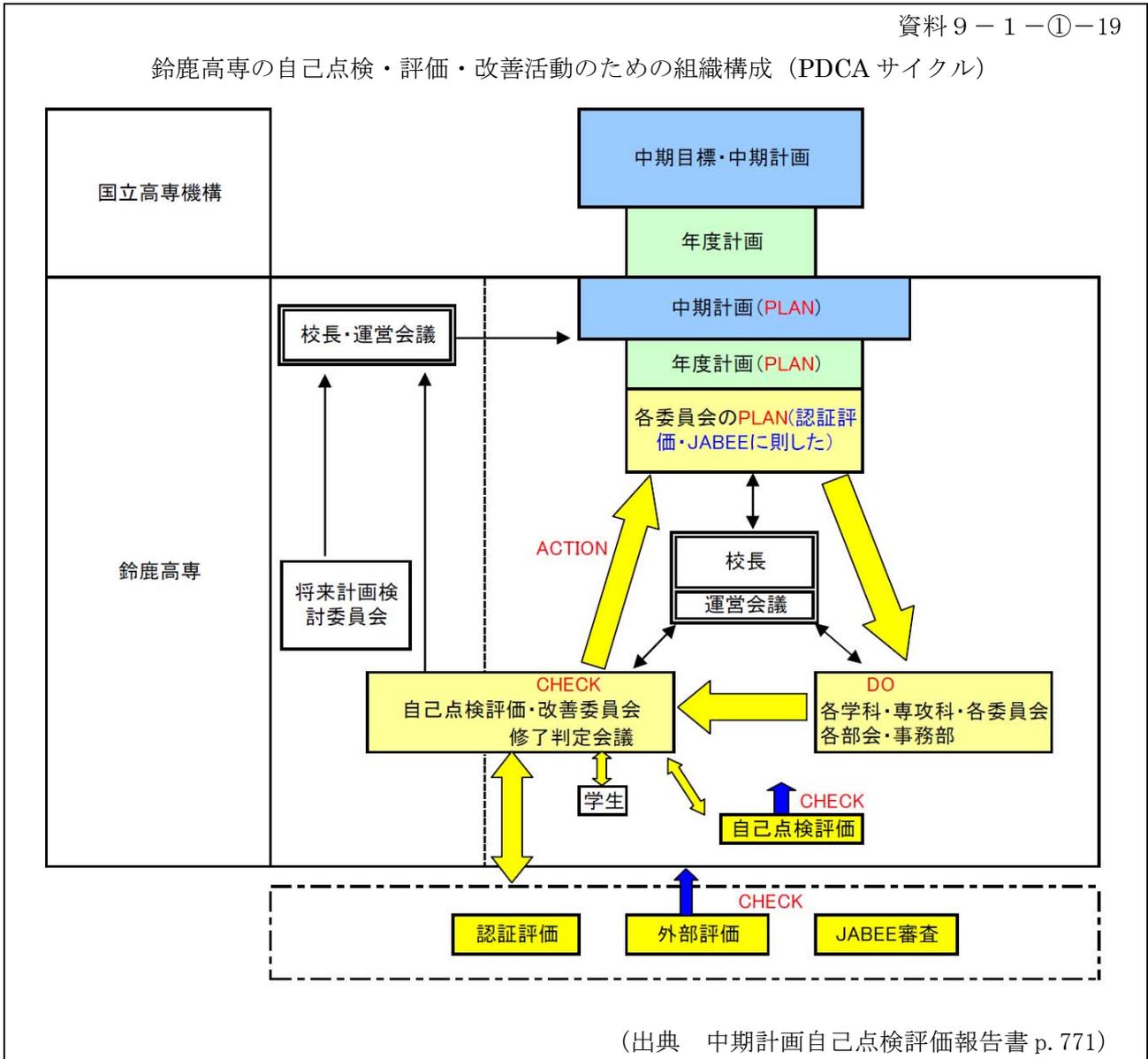
5. お問い合わせ

記入方法等のお問い合わせや、自己点検評価に関するご意見がありましたら、総務課・企画調査係 (田中) までご連絡願います。

(出典 総務課資料)

資料 9-1-①-19

鈴鹿高専の自己点検・評価・改善活動のための組織構成 (PDCA サイクル)



(分析結果とその根拠理由)

教育活動に関するデータや資料は、教務委員会、専攻科分科会及び自己点検評価・改善委員会が収集しており、学生課や保管室などに蓄積している。各学科、専攻科では、授業科目ごとに公開授業を行い、授業方法をチェックしている。

収集・蓄積した資料・データは、教務委員会、専攻科分科会及び自己点検評価・改善委員会の連携により、点検・評価するシステムが確立されている。

以上のことから、教育活動の実態を示すデータや資料を適切に収集・蓄積しており、評価を適切に行う体制を整備している。

観点 9-1-②： 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

(観点に係る状況)

自己点検・評価は、資料 9-1-①-2 の規則に基づき、各部会によって毎年度末に中期目標・中期計画（第 1 期：平成16年度～20年度，第 2 期：平成21年度～25年度，資料 9-1-①-17）にしたがって、年度計画，実施，自己評価，次年度への検討事項を報告されている。教育の状況に関する部会は、点検評価部会，教員表彰選考部会，教育改善フォローアップ部会，JABEE部会，FD部会である。

教員の意見は、公開授業の教員アンケート（資料 9-1-①-12），教育・研究活動報告書（資料 9-1-②-1）によるほか，教員相互評価によって聴取している。教職員の意見は，教職員提案制度によって聴取している。

学生からの意見は，毎年前期・後期の 2 回実施する授業アンケート（資料 9-1-②-2），卒業（修了）予定者に対する満足度等アンケート（資料 9-1-②-3，4）のほか，学生との意見交換会（資料 9-1-②-10）によって聴取している。卒業生，修了生の意見は，卒業（修了）生へのアンケート（資料 9-1-②-5，6），就職先企業及び進学先への卒業（修了）生を直接指導する上司へ向けたアンケート（資料 9-1-②-7，8）によって聴取している。これらは，自己点検評価・改善委員会によって結果がまとめられ分析されている（資料 9-1-②-9）。

また，外部有識者の意見は，外部評価委員会及び参与会にて聴取し（資料 9-1-②-11，12），これらの聴取した意見をもとに，自己点検評価・改善委員会で点検・評価を行い報告書としてまとめている（資料 9-1-①-13）ほか，本校広報誌「鈴風」記載している（資料 9-1-②-14）。

資料 9-1-②-1

教育・研究活動報告書（抜粋）

過去 1 年間の授業評価で、(1)①最も点数の高かった項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、(2) ①最も点数の低かった項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、(3)①前の評価より最も高い伸びを示した項目・点数・授業科目②その理由と考えられること、を簡潔に記述してください。

※項目は、アンケートの番号を記入。1.言葉、2.板書、3.進行、4.工夫、5.質問、6.魅力、7.成績、10.理解度

平成 23 年度分（アンケート結果は平成 22 年度および平成 23 年度前期を対象）

（教養科目）

	項目※	点数	授業科目	理由
(1) 最高点	2. 板書	4.9	英語 I B	板書は得意であるし、大きく書くため
	8. 成績	4.9	英語 I B	小テスト等、地道な努力の評価割合を多くしているため
(2) 最低点	5. 質問	2.8	英語 IV A	質問がないかどうか積極的に問いかける場面が少なかったため
(3) 上昇点	5. 質問	2.8→3.7	英語 IV A	対象学生が異なるため 授業内容が異なるため

（専門科目）

	項目※	点数	授業科目	理由
(1) 最高点	1. 言葉	4.9	電子材料特論	聞こえにくい場合は、言ってください再度説明しますとの声かけや聞き取りにくいと思った場合は聞こえたか質問するように心がけ、重要なところを何度も繰り返し説明するようにした。選択授業で9名と少人数の授業であることも要因である。
(2) 最低点	6. 魅力	3.0	電気回路	昨年度の前期にこの最低点となった。後期は3.5、今年度前期は3.4と上昇したが、さらなる工夫が必要である。しかしながら、フーリエ級数、部分積分、微分方程式など数学の知識が必要で1つの問題の計算に時間がかかりすぎることも理由である。
(3) 上昇点	5. 質問	3.8→4.6	電子材料特論	考える時間を取ることや、理解しているかの確認の質問や、説明後に質問がないか聞くように心がけた。(1)と同様に少人数の授業なことも要因かもしれない。

（出典 教育・研究活動報告書）

資料 9-1-②-2

平成 23 年度前期授業アンケート結果

平成 23 年 8 月 22 日

教員各位

教務主事

FD 部長

前期授業アンケートの集計結果について

前期授業アンケート集計結果を当該授業担当教員の連絡BOXへ返却しました。また全体集計については、以下のフォルダに保存しましたのでご参照ください。

file://¥¥Aspen¥all¥share¥資料¥FD¥授業アンケート H23 年度¥前期

(アンケート結果例)

23 年度前期授業アンケート

	講義 学科生・専攻科生 全体	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1	5 段階平均評価
1	先生は、よく聞こえる言葉で授業を行っていましたか？	6270	3737	1402	588	399	4.2
2	先生は、見やすい板書（またはOHP）で授業を行っていましたか？	4130	3526	2448	1330	962	3.7
3	先生は、学生の理解の程度に留意しながら授業を行っていましたか？	3299	4030	2977	1195	884	3.6
4	先生は、教え方などを工夫しわかりやすく授業を行っていましたか？	3415	4050	2996	1114	815	3.7
5	授業中は、質問しやすかったですか？	2970	3435	3821	1308	855	3.5
6	授業は、興味や関心を持たせるものでしたか？魅力的な授業でしたか？	2946	3998	3381	1151	913	3.6
7	授業で出された成績は、シラバスの評価方法および評価基準に沿うものでしたか？	4190	3245	3803	302	317	3.9

		した	ややした	どちらでもない	あまりしなかつた	しなかつた
8	あなたは、シラバスの記載内容（「知識・能力」「参考書・教材」「成績評価方法」など）を参考にして、授業の予習・復習、試験勉強などを行いましたか？	1418	2429	3778	1783	2910
9	あなたは、授業に対し真剣に取り組みましたか？	5093	4534	2021	491	225
10	あなたは、授業によってこの分野の理解が深まりましたか？	3664	5273	2340	596	490

		0.5時間以内	1時間	1.5時間	2時間	2.5時間
11	あなたは、この科目について授業時間以外での勉強(自己学習)を、一週間あたり平均してどのくらい行いましたか？	5696	2946	922	955	211

3時間	3.5時間	4時間	4.5時間	5時間
513	125	309	57	201

5.5時間	6時間	6.5時間	7時間	7.5時間
12	39	7	29	7

8時間	8.5時間	9時間	9.5時間	9.9時間以上
30	16	20	19	238

平均時間数(時間)

(出典 学生課資料)

資料 9-1-②-3

平成 23 年度 学科卒業予定者に対する満足度等アンケート調査 (全体)

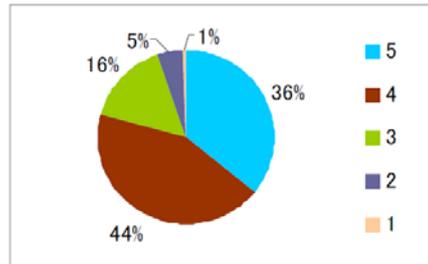
アンケート回答卒業予定者内訳

機械工学科 42 名 電気電子工学科 46 名 電子情報工学科 38 名
 生物応用化学科 31 名 材料工学科 36 名

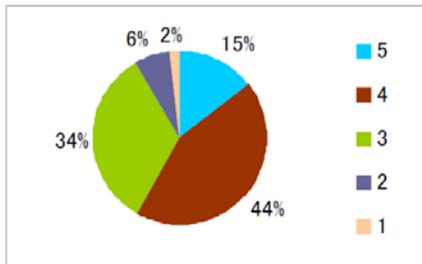
質問 2 高専での教育内容, 身に付けたこと, 学生支援に対して, どの程度満足していますか?

[5. 大変満足している。 →→→→
 1. まったく満足していない。]

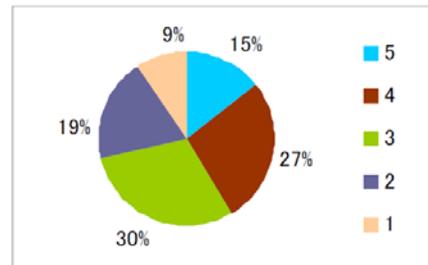
5. 専門科目の実験・実習



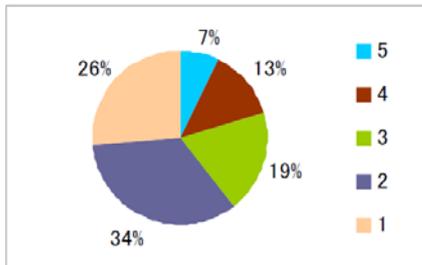
1. 一般教養・知識



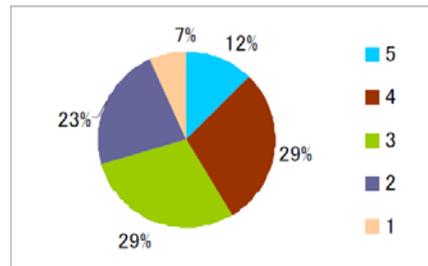
6. 情報技術 (プログラミング)



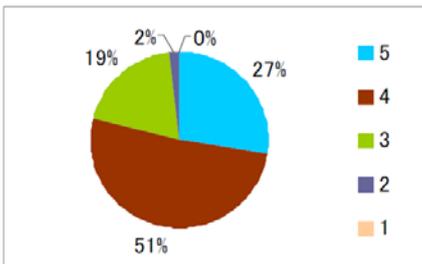
2. 語学力 (英語)



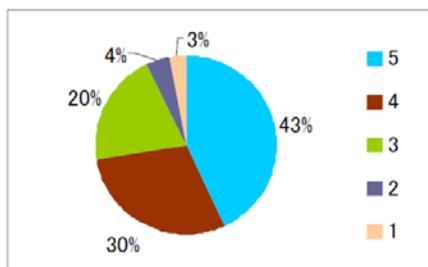
7. 情報技術 (ソフト操作・CAD 等)



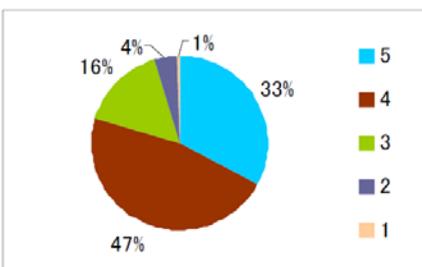
3. 理系一般科目



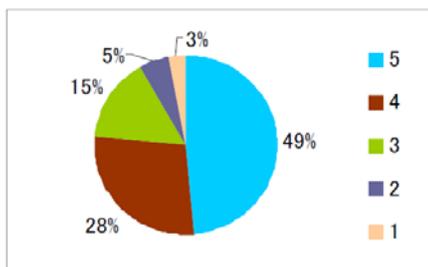
8. 卒業研究



4. 専門科目の講義

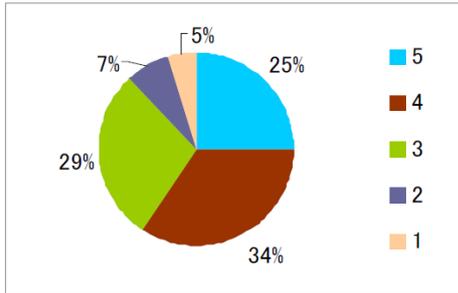


9. インターンシップ

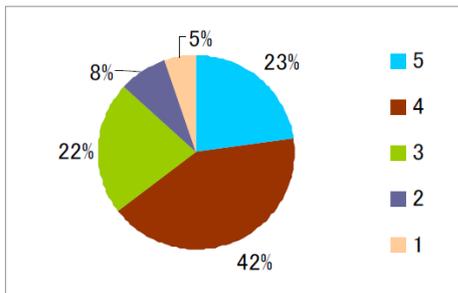


資料 9-1-②-3 続き

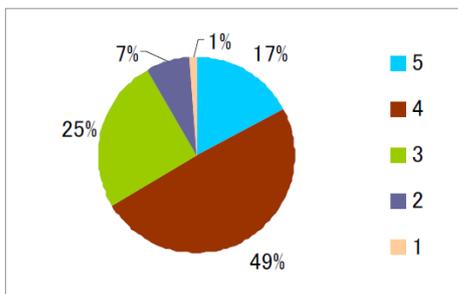
10. コミュニケーション能力



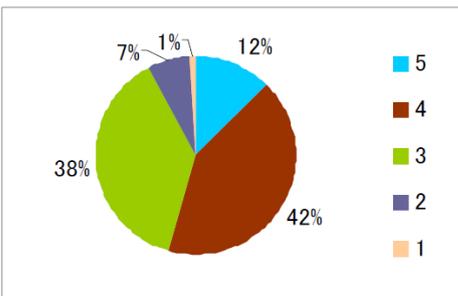
11. プレゼンテーション能力



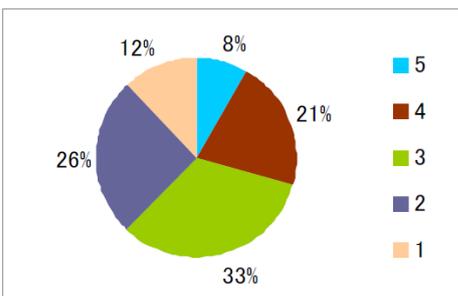
12. 論理的思考力



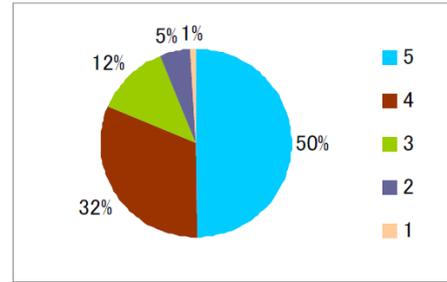
13. エンジニアリング・デザイン能力



14. 各種資格取得支援



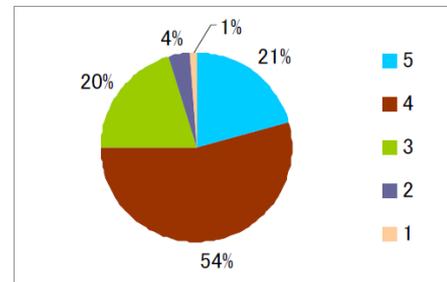
15. 就職・進学支援



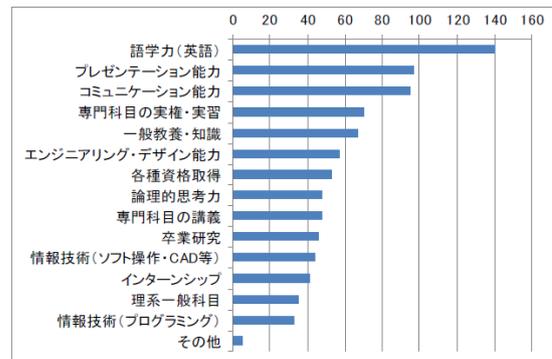
質問 3 全体的に評価して、高専の教育内容、身に付けたこと、学生支援に対して、どの程度満足していますか？

[5. 大変満足している。 →→→→

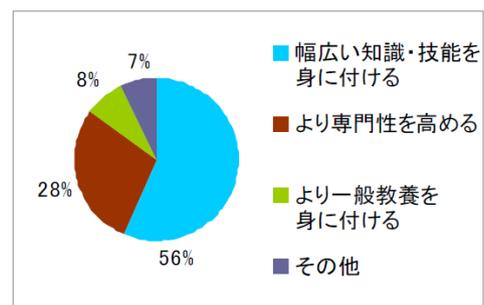
1. まったく満足していない。]



質問 6 今後、高専卒業者がより社会に貢献するためには、以下のどれをより重視すべきだと思いますか？（複数回答可）



質問 7 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれの方向に進むべきだと思いますか？



(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

資料 9-1-②-4

平成 23 年度 専攻科修了予定者に対する満足度等アンケート調査 (全体)

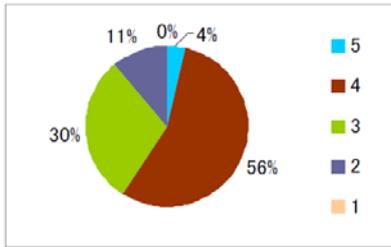
アンケート回答修了予定者内訳

電子機械工学専攻 21 名
 応用物質工学専攻 6 名

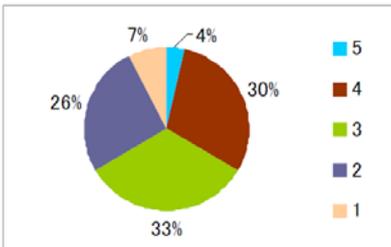
質問 2 教育内容, 身に付けたこと, 学生支援に対して, どの程度満足していますか?

[5. 大変満足している。 → → → →
 1. まったく満足していない。]

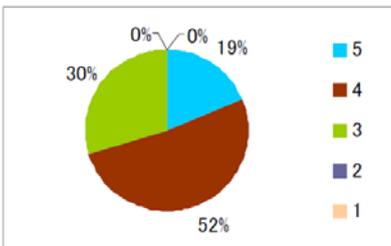
1. 一般教養・知識



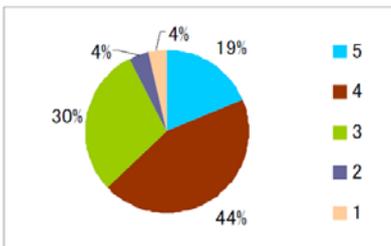
2. 語学力 (英語)



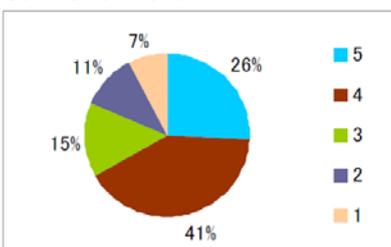
3. 理系一般科目



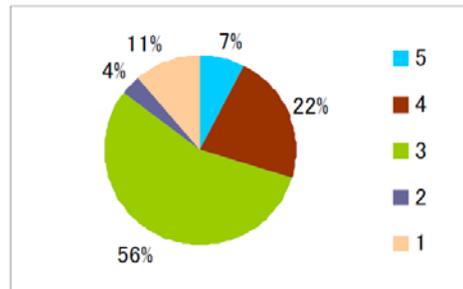
4. 専門科目の講義



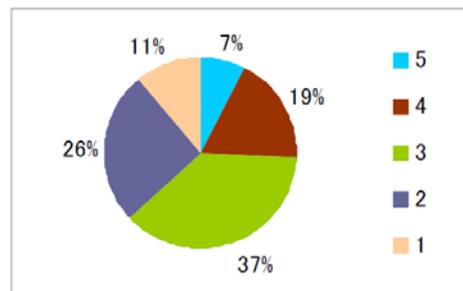
5. 専門科目の実験・実習



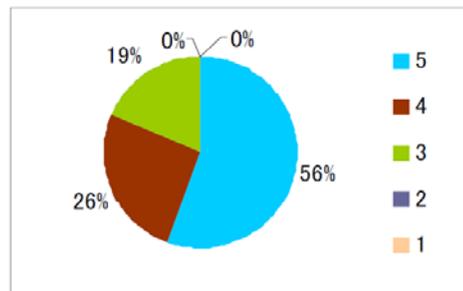
6. 情報技術 (プログラミング)



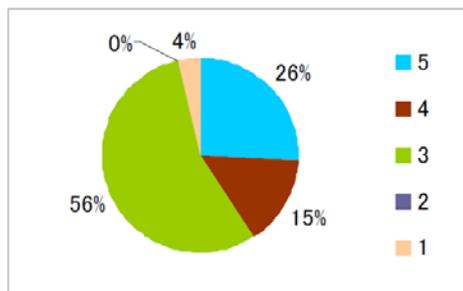
7. 情報技術 (ソフト操作・CAD 等)



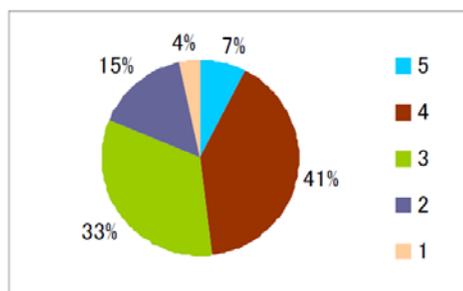
8. 特別研究



9. インターンシップ

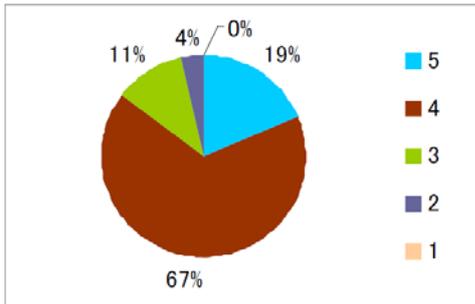


10. コミュニケーション能力

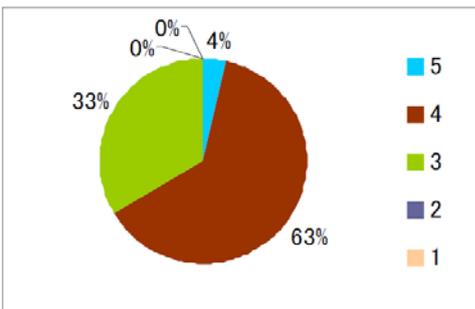


資料 9-1-②-4 続き

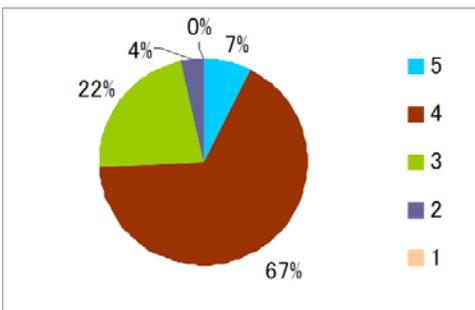
11. プレゼンテーション能力



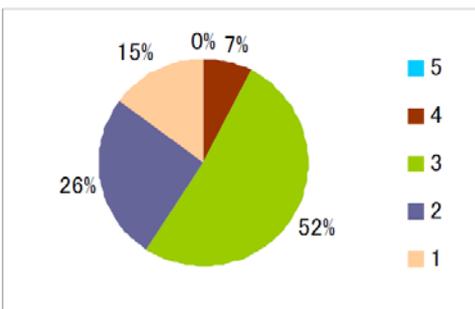
12. 論理的思考力



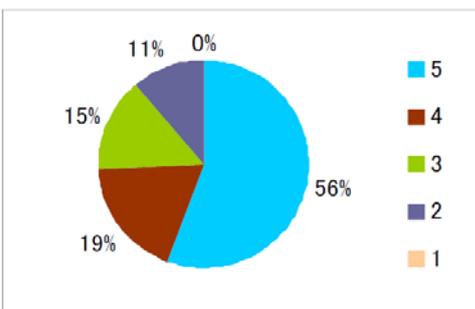
13. エンジニアリング・デザイン能力



14. 各種資格取得支援

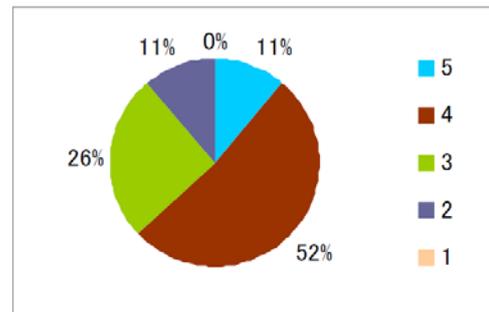


15. 就職・進学支援

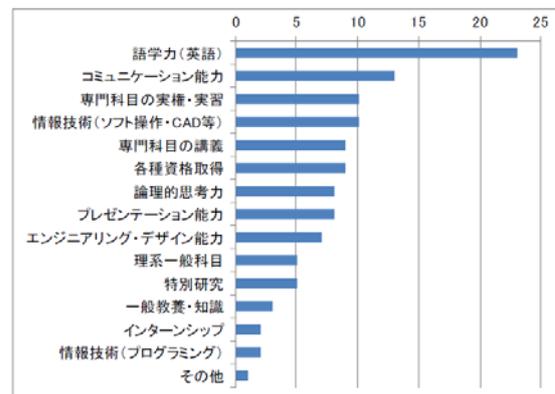


質問 3 全体的に評価して、専攻科の教育内容、身に付けたこと、学生支援に対して、どの程度満足していますか？

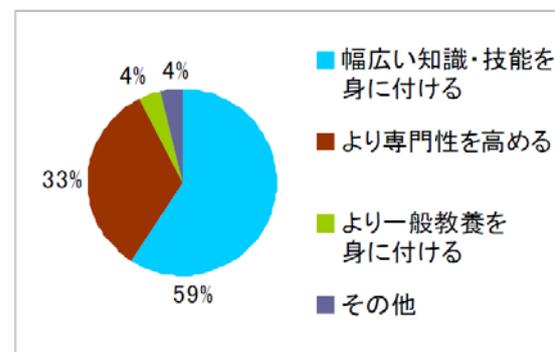
[5. 大変満足している。 →→→→
1. まったく満足していない。]



質問 6 今後、専攻科修了生がより社会に貢献するためには、以下のどれをより重視すべきだと思いますか？（複数回答可）



質問 7 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれの方向に進むべきだと思いますか？



(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

平成 21 年度学科卒業生に対する「学習・教育目標」達成度及び満足度等アンケート調査

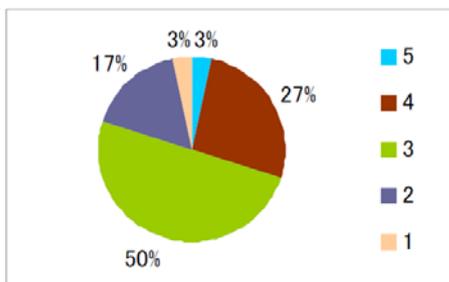
アンケート回答卒業生内訳

機械工学科卒業生	7 名
電気電子工学科卒業生	4 名
電子情報工学科卒業生	9 名
生物応用化学科卒業生	6 名
材料工学科卒業生	4 名

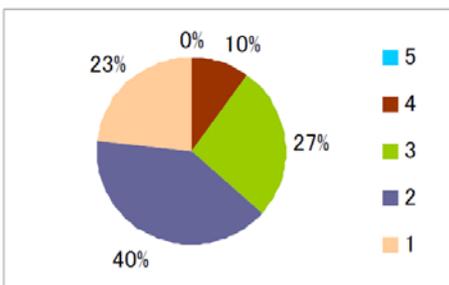
6. 高専での教育内容, 身に付けたこと, 学生支援
 に対して, どの程度満足していますか?

[5. 大変満足している。 →→→→
 1. まったく満足していない。]

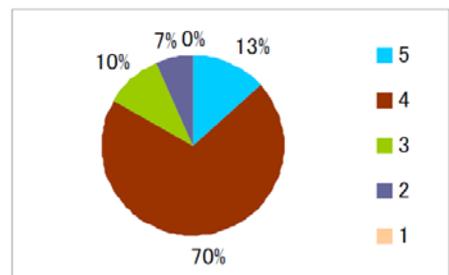
1. 一般教養・知識



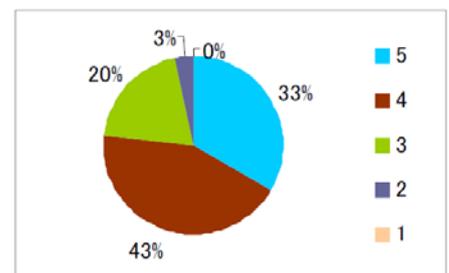
2. 語学力 (英語)



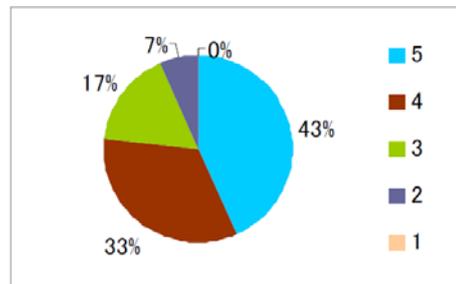
3. 理系一般科目



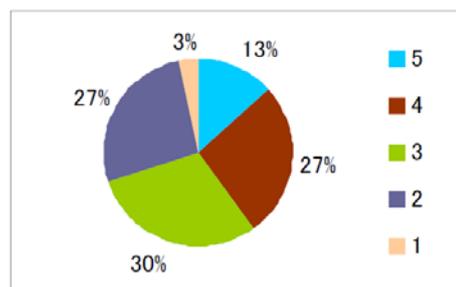
4. 専門科目の講義



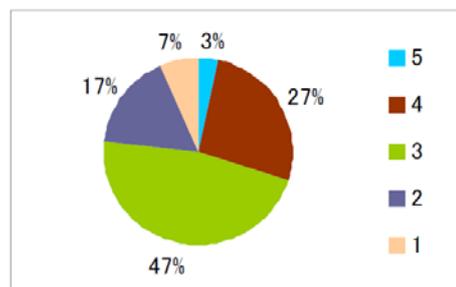
5. 専門科目の実験・実習



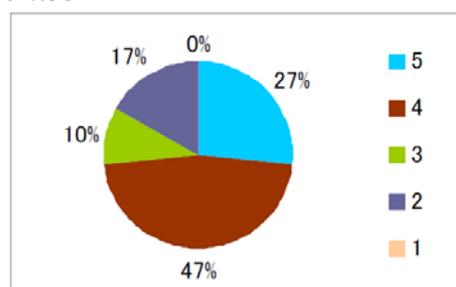
6. 情報技術 (プログラミング)



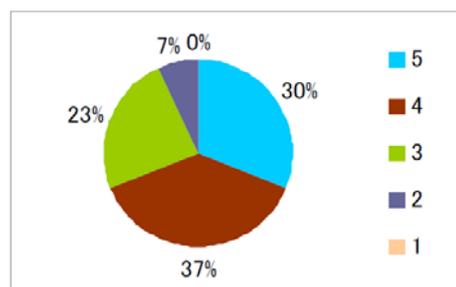
7. 情報技術 (ソフト操作・CAD 等)



8. 卒業研究

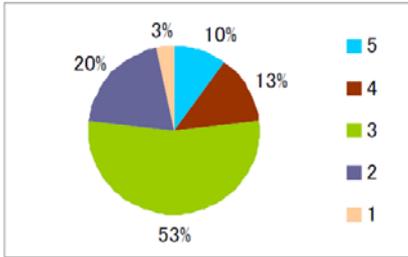


9. インターンシップ

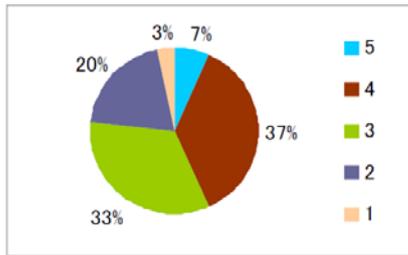


資料 9-1-②-5 続き

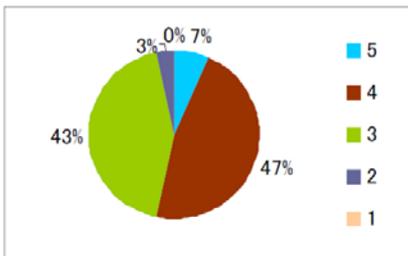
10. コミュニケーション能力



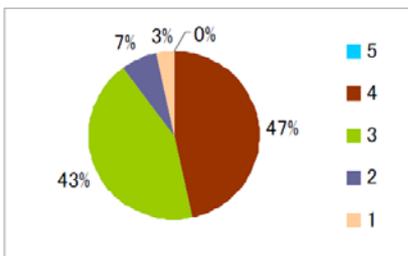
11. プレゼンテーション能力



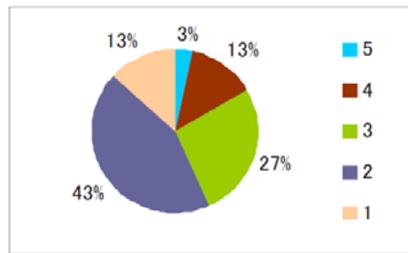
12. 論理的思考力



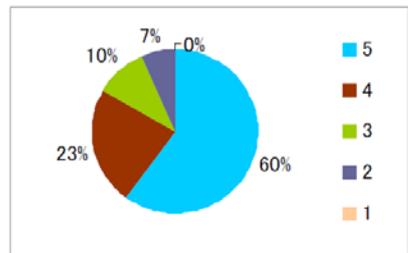
13. エンジニアリング・デザイン能力



14. 各種資格取得支援

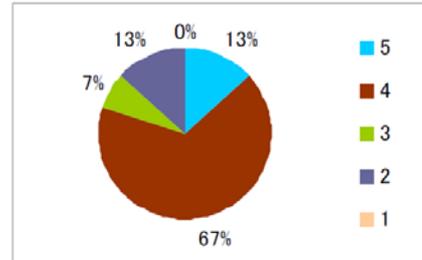


15. 就職・進学支援

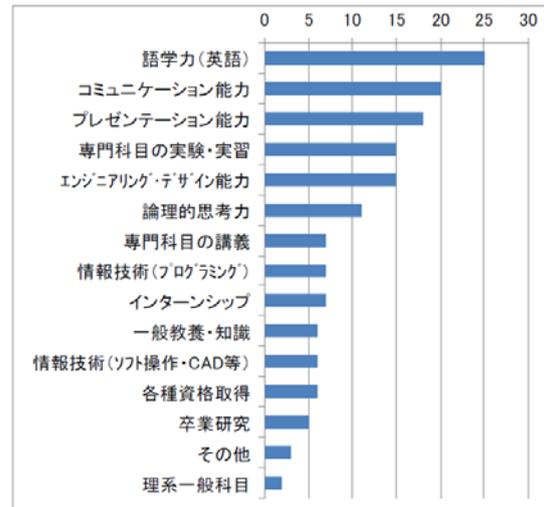


7. 全体的に評価して、高専の教育内容、身に付けたこと、学生支援に対して、どの程度満足していますか？

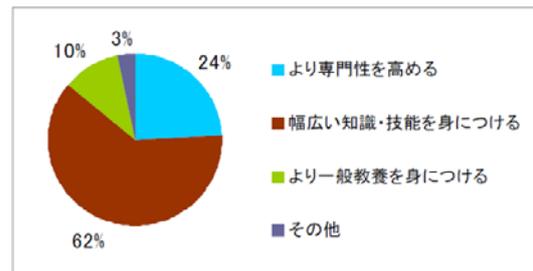
[5.大変満足している。 →→→→
1.まったく満足していない。]



10. 今後、高専卒業者がより社会に貢献するためには、以下のどれを重視すべきだと思いますか？



11. 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれの方向に進むべきだと思いますか？



(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

平成 21 年度専攻科修了生に対する「学習・教育目標」達成度及び満足度等アンケート調査

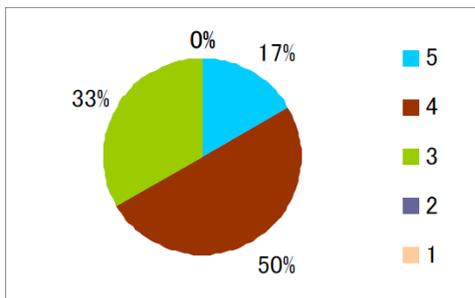
アンケート回答修了生の内訳

電子機械工学専攻修了生 2 名

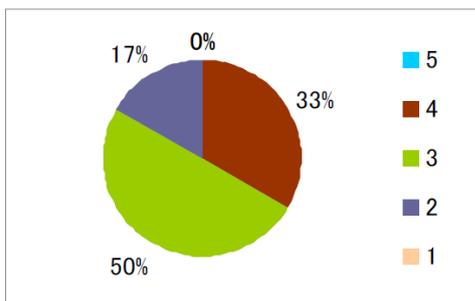
応用物質工学専攻修了生 4 名

6. 専攻科での教育内容, 身に付けたこと, 学生支援に対して, どの程度満足していますか?
[5. 十分身に付いた。→→→ 1. 全く身に付かなかった。]

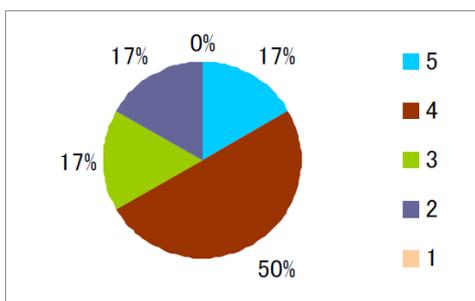
1. 一般教養・知識



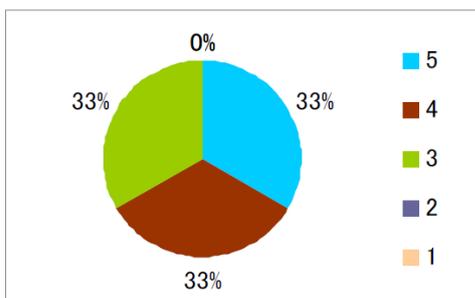
2. 語学力 (英語)



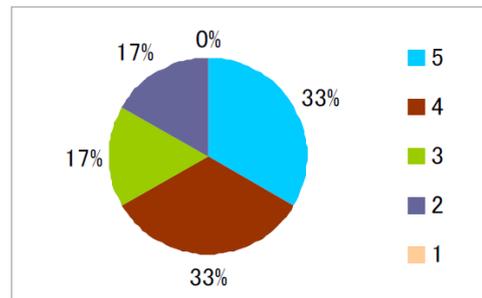
3. 理系一般科目



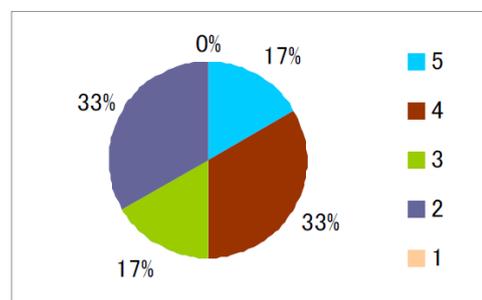
4. 専門科目の講義



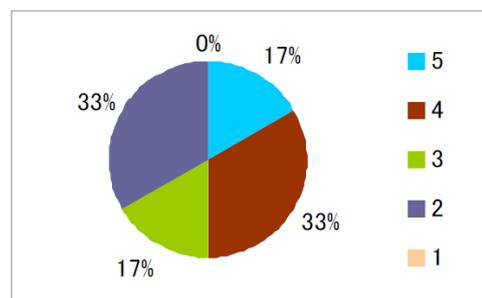
5. 専門科目の実験・実習



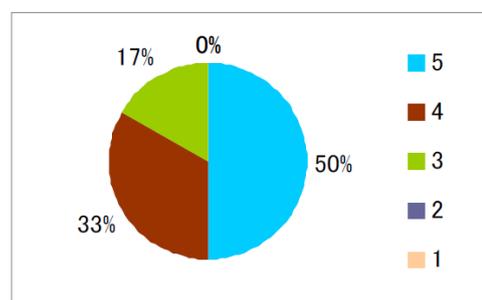
6. 情報技術 (プログラミング)



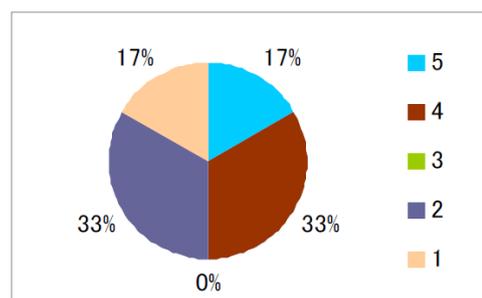
7. 情報技術 (ソフト操作・CAD 等)



8. 特別研究

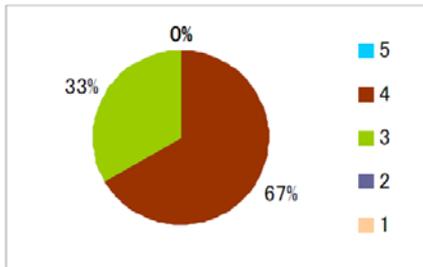


9. インターンシップ

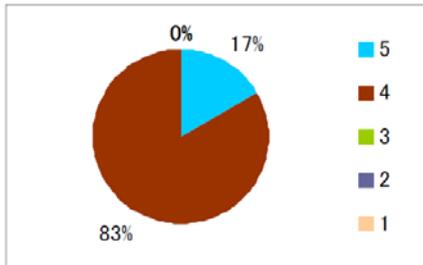


資料 9-1-②-6 続き

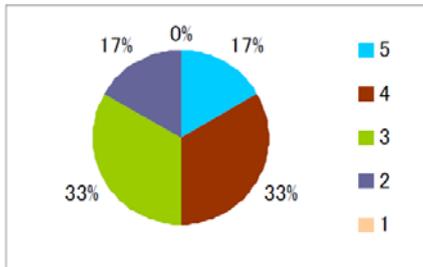
10. コミュニケーション能力



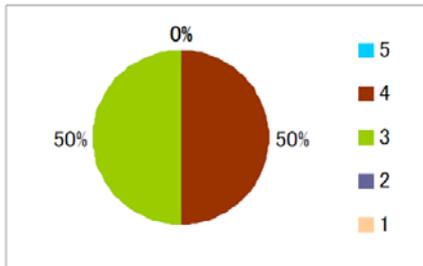
11. プレゼンテーション能力



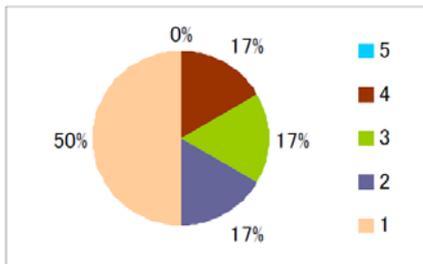
12. 論理的思考力



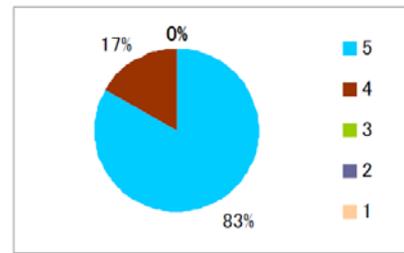
13. エンジニアリング・デザイン能力



14. 各種資格取得支援

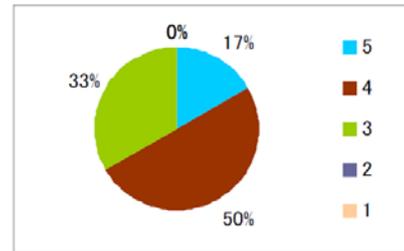


15. 就職・進学支援

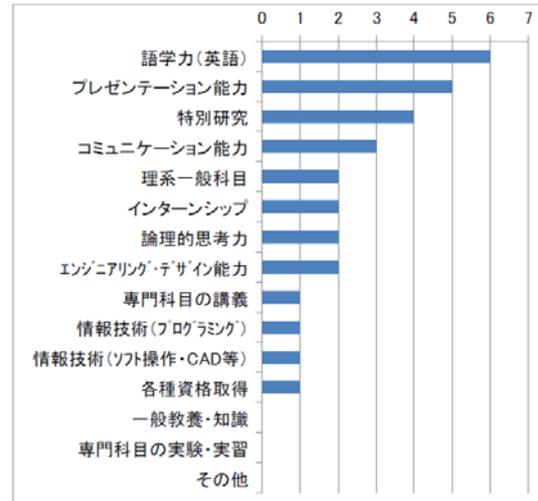


7. 全体的に評価して、専攻科の教育内容、身に付けたこと、学生支援に対して、どの程度満足していますか？

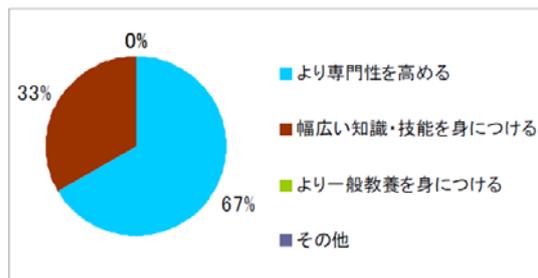
[5. 大変満足している。 →→→ 1. まったく満足していない。]



10. 今後、専攻科修了生がより社会に貢献するためには、以下のどれを重視すべきだと思いますか？



11. 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれかの方向に進むべきだと思いますか？



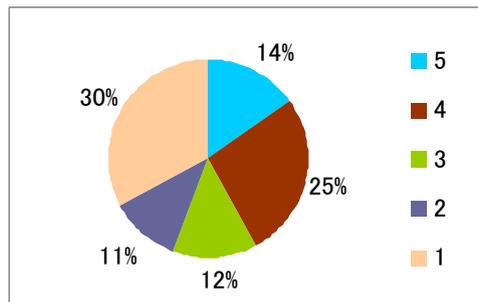
(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

平成 22 年度学科卒業生の上司による「学習・教育目標」達成度評価等に関するアンケート調査

アンケート回答対象卒業生内訳 () 内は就職者総数

機械工学科卒業生	14 名	(17 名)
電気電子工学科卒業生	13 名	(24 名)
電子情報工学科卒業生	10 名	(23 名)
生物応用化学科卒業生	8 名	(21 名)
材料工学科卒業生	12 名	(15 名)

7. 貴社に就職する卒業生の身につける最低限の英語力として、TOEIC で何点以上を望まれますか？
 [5. 550 点以上 4. 500 点以上 3. 450 点以上 2. 400 点以上 1. 特に望まない。]



(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

資料 9-1-②-8

平成 19~21 年度専攻科修了生の上司等による「学習・教育目標」達成度評価等に関するアンケート調査

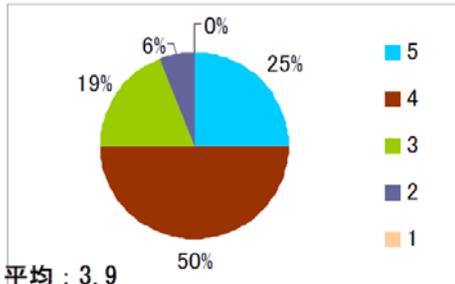
アンケート回答上司等内訳

勤務先上司 6 名

大学院指導教員 10 名

2. 「複合型生産システム工学」プログラムの「学習・教育目標」は適切でしょうか？

[5. 十分適切である。→→→1. 全く適切でない。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたらご記入ください。

勤務先上司

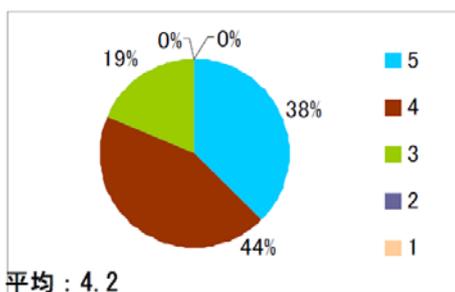
・本プログラムが記載の目標を達成できるのであれば、適切と思う。

大学院指導教員

・設計の観点が必要なのではないか。
・内容、分野が多岐にわたり過ぎている。

3. 学習・教育目標の「(A)技術者としての姿勢」を達成していれば、一般的にこの面に関する「社会の要請する水準」以上の学士といえるでしょうか？

[5. 水準よりかなり上である。→→→1. 水準よりかなり下である。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたらご記入ください。

勤務先上司

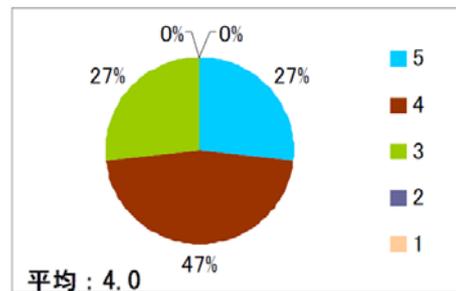
・本プログラムで書かれているような国際的視野で物事を考えられるレベルを達成できれば good という意味で評価 4。実際には日本の外から見ないと日本の良い所も悪い所も見えてこないと言われており、授業だけで国際感覚を身につけるのは難しいように思われるので、本プログラムが本当に機能し、目標を達成しているかは評価が難しい。

大学院指導教員

・特に(A)の内容を身に付けた学生は本学でもごく稀です。

5. 学習・教育目標の「(B)基礎・専門の知識とその応用力」を達成していれば、一般的にこの面に関する「社会の要請する水準」以上の学士といえるでしょうか？

[5. 水準よりかなり上である。→→→1. 水準よりかなり下である。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたらご記入ください。

勤務先上司

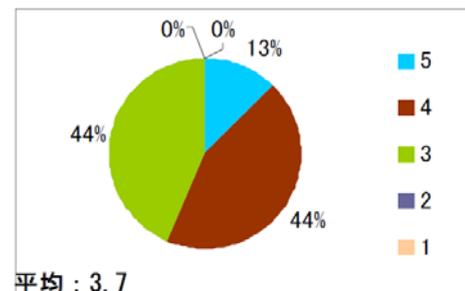
・各項目の達成レベルがわからないので、水準判断できません。
・本プログラムに記載の知識を身に付けていれば、会社での業務を進める上で基礎という点では問題ないとする。大切なのは「展開」の部分で、知識をベースに問題解決を論理的に進められること。

大学院指導教員

・確率や集合論に関する知識も必要ではないか。

7. 学習・教育目標の「(C)コミュニケーション能力」を達成していれば、一般的にこの面に関する「社会の要請する水準」以上の学士といえるでしょうか？

[5. 水準よりかなり上である。→→→1. 水準よりかなり下である。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたらご記入ください。

勤務先上司

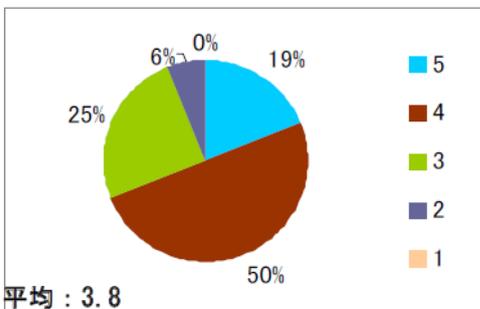
・「発表」だけでなく、日常の報告・連絡・相談のズレがまず必要であると思います。

大学院指導教員

- ・ 他人の意見を的確に理解する力の必要かと思
います。
- ・ 英語での口頭発表能力の充実が望ましい。
- ・ コミュニケーションは個人ごとにばらつきが大き
く、定量的に定められるものではないと思う。

9. この「学習・教育目標」を達成していれば、学
士として必要とされるだけのエンジニアリン
グ・デザイン能力*注 が身に付いているといえ
るでしょうか？

*注：必ずしも解が一つでない問題に対して習得し
た幅広い知識・能力を総合的に発揮して実現可
能な解を見つけ出す能力
[5. 十分身に付いている。 →→→→1.
全く身に付いていない。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたら
ご記入ください。

勤務先上司

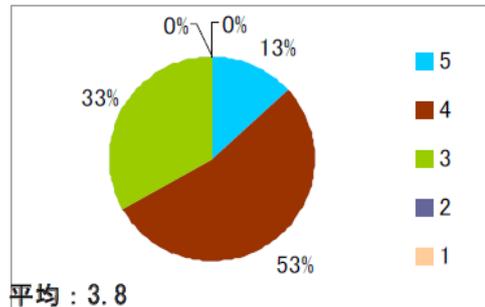
- ・ 論理の組み立て、仮説の立て方、検証のスキ
ルが欲しい。
- ・ 基本能力は身に付いている。

大学院指導教員

- ・ 学部 3, 4 年生に相当する専攻科生は、他大学
と比較して修士の先輩が居ないことから、能力
ののびしろが小さくなる。

資料 9-1-②-8 続き

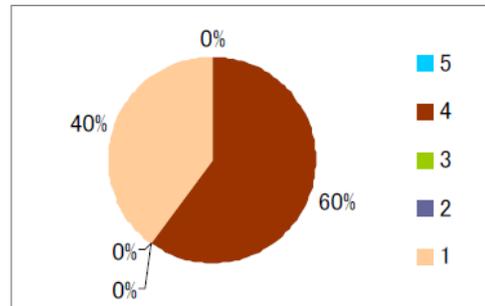
10. 本教育プログラムを修了したことで「学習・教
育目標」を達成したこととなりますが、「学習・
教育目標」の達成を判定する評価方法と評価基
準（資料 2 及び資料 3）は、妥当でしょうか？
[5. 非常に妥当である。 →→→→1. 全く妥当
でない。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたら
ご記入ください。

記述なし

13. 貴社に就職する学生の身につける最低限の英語
力として、TOEIC で何点以上を望まれますか？
[5. 550 点以上 4. 500 点以上 3. 450 点
以上 2. 400 点以上 1. 特に望まない。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたら
ご記入ください。

勤務先上司

- ・ 職務上有効となる英語力は、TOEIC の得点より
実践の経験が物を言います。自分から話しかけ
る積極性や、知っている単語を駆使して意思を
伝えようとする応用力を身につけることが大事
かと思われます。
- ・ 英語力は、もう1ランク上げてほしい。

(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

資料 9-1-②-9

平成 24 年度 第 1 回 自己点検評価・改善委員会 議事要旨

日 時：平成 24 年 5 月 24 日（木） 17：40～19：30

場 所：管理棟 第 1 会議室

出席者：新田校長（委員長）、桑原、西岡、井上、埜、近藤（一）、江崎、井瀬、奥、佐脇、
伊藤（明）、生貝、長原、濱口、

陪 席：五十棲

議 事

事項 1.

平成 23 年度 点検評価部会・複合型生産システム工学プログラム推進部会 合同部会報告について

学科・専攻科プログラム、学科・専攻科「学習教育・目標」、学生支援、教育環境等に関する学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取あるいは各種の評価として、自己点検評価・改善委員会の点検評価部会と教務委員会の複合型生産システム工学プログラム推進部会（以下「合同部会」と称す）が実施した「アンケート調査・評価結果」及びアンケート調査・評価結果の分析結果等を合同部会でまとめた「合同部会報告」（配布資料）に基づいて議論し、「合同部会報告」の内容が了承された。

1. 平成 23 年度 卒業予定者、修了予定者に対する満足度等アンケート調査結果について

（資料：平成 23 年度 学科卒業予定者に対する満足度等アンケート調査（全体））

（資料：平成 23 年度 専攻科修了予定者に対する満足度等アンケート調査（全体））

学科全体

学科プログラム 項目別評価（質問 2）：

「一般教養・知識」、「理系一般科目」、「専門科目の講義」、「専門科目の実験・実習」、「卒業研究」、「インターンシップ」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」、「論理的思考力」、「エンジニアリング・デザイン能力」、「就職・進学支援」とほとんどの項目に関して、肯定的意見（選択肢 4,5）が 50%以上（5段階評価平均 3.6 以上）と高く評価している。

「語学力（英語）」に関しては、否定的意見（選択肢 1,2）が肯定的意見を上回っており、平均 2.4 と満足度が低い。

学科プログラム 総合評価（質問 3）： 肯定的意見が 75%（平均 3.9）と総合評価も高い。

以上のように学科プログラムに対する満足度は高い。

今後重視すべき教育内容、学生支援等（質問 6）： 評価が低い「語学力（英語）」が 1 位である。

今後の教育方針（質問 7）： 「幅広い知識・技能を身に付ける」が過半数を占めている。

専攻科全体**専攻科プログラム 項目別評価:**

「一般教養・知識」,「理系一般科目」,「専門科目の講義」,「専門科目の実験・実習」,「特別研究」,「インターンシップ」,「コミュニケーション能力」,「プレゼンテーション能力」,「論理的思考力」,「エンジニアリング・デザイン能力」,「就職・進学支援」とほとんどの項目に関して,肯定的意見が概ね 50%以上(平均 3.3 以上)で高く評価している。

「各種資格取得支援」に関しては,否定的意見が肯定的意見を上回っており,平均 2.5 と満足度が低い。

専攻科プログラム 総合評価: 肯定的意見が 63%(平均 3.6)と総合評価も高い。

以上のように専攻科プログラムに対する満足度は高い。

今後,重視すべき教育内容,学生支援等: 比較的评价が低い「語学力(英語)」が1位である。

今後の教育方針:「幅広い知識・技能を身に付ける」が過半数を占めている。

2. 平成 21 年度 学科卒業生及び専攻科修了生に対する「学習・教育目標」達成度及び満足度等アンケート調査結果について

(資料:平成 21 年度 学科卒業生に対する「学習・教育目標」達成度及び満足度等アンケート調査)

(資料:平成 21 年度 専攻科修了生に対する「学習・教育目標」達成度及び満足度等アンケート調査)

学科プログラム 項目別評価 (質問 6):

「理系一般科目」,「専門科目の講義」,「専門科目の実験・実習」,「情報技術(プログラミング)」,「卒業研究」,「インターンシップ」,「プレゼンテーション能力」,「論理的思考力」,「エンジニアリング・デザイン能力」,「就職・進学支援」とほとんどの項目に関して,肯定的意見が 40%以上(平均 3.2 以上)と満足している。

「語学力(英語)」,「各種資格取得支援」に関しては,否定的意見が肯定的意見を上回っており,平均 2.2 ~2.4 と満足度が低い。

学科プログラム 総合評価 (質問 7): 肯定的意見が 80%(平均 3.8)と総合評価も高い。

以上のように学科プログラムに対する満足度は高い。

今後重視すべき教育内容,学生支援等 (質問 10): 評価が低い「語学力(英語)」が1位である。

今後の教育方針 (質問 11):「幅広い知識・技能を身に付ける」が過半数を占めている。

資料9-1-②-9つづき

専攻科プログラム 項目別評価:

「一般教養・知識」,「理系一般科目」,「専門科目の講義」,「専門科目の実験・実習」,「情報技術(プログラミング)」,「情報技術(ソフト操作・CAD等)」,「特別研究」,「インターンシップ」,「コミュニケーション能力」,「プレゼンテーション能力」,「論理的思考力」,「エンジニアリング・デザイン能力」,「就職・進学支援」とほとんどの項目に関して,肯定的意見が50%以上(平均3.0以上)で高く評価している。

「各種資格取得支援」に関しては,否定的意見が肯定的意見を上回っており,平均2.0と満足度が低い。

専攻科プログラム 総合評価: 肯定的意見が67%(否定的意見0%,平均3.8)と総合評価も高い。

以上のように専攻科プログラムに対する満足度は高い。

今後重視すべき教育内容,学生支援等: 評価が低い「語学力(英語)」に加えて,「プレゼンテーション能力」「特別研究」が上位である。

今後の教育方針: 「より専門性を高める」が過半数を占めている。

4. 平成19～21年度専攻科修了生の上司等による「学習・教育目標」達成度評価等の結果について

(資料:平成19～21年度 専攻科修了生の上司等による「学習・教育目標」達成度評価等に関するアンケート調査)

「複合型生産システム工学」プログラムの「学習・教育目標」の水準,達成度評価基準等(質問1,2,3,5,7,10)については,肯定的意見が57%(否定的意見0%)～82%,平均3.7～4.2と高い評価である。

「複合型生産システム工学」プログラムの「学習・教育目標」の妥当性が認められ,修了生の「学習・教育目標」の達成度は5段階評価で平均3以上あり,概ね身に付いていると評価されている。

(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

平成 23 年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応 (抜粋)

生物応用化学科		平成 23 年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応			
	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項	学校への要望事項 対応実績
1. 学習・教育目標の内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりづらい。(3C) ・文章ではなく、図式化して、もっとわかりやすくしてほしい。(4C) 	<p>図式化すると、むしろ混乱するのではないかという意見が学科会議で出ました。学習・教育目標をイメージしやすい事柄と関連付けられるように、学習・教育目標達成度評価アンケートを実施する際、アンケート項目が学習・教育目標のどの部分を具体化しているかについて、学級担任より解説していただくよう要請します。</p>			
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワー、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	<p>(資格・検定試験受験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格やTOEICに関して説明が欲しい(どの資格を持っていくと社会に出て役に立つか、編入学の役に立つか、学校の単位になるか、単位申請するための方法、など)。(3C) ・検定試験の実施日をきちんと伝えて欲しい。(3C) 	<p>資格取得支援のため、生物応用化学科のウェブサイトを以下のように充実させていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餘鹿高専で単位認定している技能審査を実施している機関のURLを掲載する。 ・生物応用化学科の教育内容と強く関連した技能審査とTOEICについては試験日程を掲載する。 ・該当する資格を取得することによって将来生じるメリットを記載する。 			
3. 教育環境および学生を支援するシステム(学級担任制、学生相談室、厚生施設、学寮、図書館、自主学習スペース、コンピュータなど)について	<p>(学寮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sun-netのネット環境を改善して欲しい。繋がらない時がしばしばある。(4C) (コンピュータ) <ul style="list-style-type: none"> ・学外からでもインターネットシブプ受け入れ状況などを閲覧できるようにしてほしい。 			<p>インターネットや就職・編入学に関する情報をMoodle等から閲覧できるよう、学校に要請します。また、学外からの閲覧の可否についても検討するよう要請します。</p>	
4. 教育に対する学生の満足度	<p>実験で、分からないことを調べる時の参考文献を紹介して欲しい。レポートについて、直すべき点について指摘が欲しい。(3C)</p>	<p>生物応用化学科としてレポート作成のてびきを作成し、1年次からそれに沿った指導を行っていきます。(てびきの作成には時間がかかるので来年度からの対応は難しいですが、再来年度には間に合うようにします。てびきが完成するまでには、実験ガイダンス時に資料を配布するなどしてレポートの書き方や参考文献の探し方を紹介します。)</p>			
5. その他					

(出典 合同部会資料)

外部評価委員会

日程

- | | |
|-----------|--|
| 1. 日時 | 平成 22 年 3 月 5 日 (金) 13:30～16:00 |
| 2. 場所 | 鈴鹿工業高等専門学校 第 1 会議室 |
| 3. 本校出席者 | 校長, 主事, 自己点検評価・改善委員会委員, 点検評価部会員 |
| 4. 委員会の進行 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 校長挨拶 ○ 外部評価委員会委員及び同委員会対応者紹介 ○ 委員長の選出 ○ 学校説明及び質疑応答 ○ 自己点検評価報告書の概要説明 ○ 自己点検評価報告に関する意見交換 ○ 校長挨拶 |

配布資料

1. 本日のスケジュールについて
2. 座席表
3. 外部評価委員会規則
4. 外部評価委員会委員名簿
5. 外部評価委員会学内対応者名簿
6. 自己点検評価報告書 (要約版)
— 鈴鹿工業高等専門学校第 1 期中期目標期間 中期計画 活動経過・結果報告書 —
7. メモ用紙
8. ポケットガイド

(出典 総務課資料 抜粋)

外部評価委員会規則 (抜粋)

(任務)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言又は勧告等を行う。

- (1) 本校の教育研究活動等 (教育プログラムを含む。) について本校が行う点検・評価に関する事項
- (2) その他本校に関する評価に関する事項

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 外部評価委員会規則)

資料 9-1-②-12

平成 23 年度 参与会

開催通知

平成 24 年 3 月 1 日

学科長 様
 点検評価部会員 様
 複合生産システム工学プログラム推進部会員 様

総務課長

参与会の開催について

このことについて、下記のとおり開催されますので校務に支障のない限りご出席いただきますようお願い申し上げます。

記

日時 平成 24 年 3 月 16 日 (金) 14 時～16 時
 場所 第 1 会議室

配布資料一覧

- 1 本日のスケジュールについて
- 2 座席表
- 3 参与会委員名簿
- 4 参与会学内対応者名簿
- 5 「鈴鹿高専創立 50 年と今後の展望のために」
「教育研究及び学生指導の現状と課題について」
- 6 メモ用紙
- 7 ポケットガイド
コウセン (2012 入学案内)

本日のスケジュールについて

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ○ はじめに (配布資料等の確認等) (総務課長) | 14:00-14:05 |
| ○ 校長挨拶 | 14:05-14:15 |
| ○ 本校対応者紹介(事務部長) | 14:15-14:20 |
| ○ 学校説明 (校長) | 14:20-14:35 |
| ○ 教育研究及び学生指導の現状と課題について (副校長) | 14:35-14:55 |
| ○ 意見交換 | 14:55-15:55 |
| ○ 校長挨拶 | 15:55-16:00 |
- (出典 総務課資料 抜粋)

参与会規則 (抜粋)

(任務)

第 2 条 参与会は、校長の諮問に応じて、本校の運営に関する重要事項を審議し、意見を述べること。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 参与会規則)

資料 9 - 1 - ② - 13

平成 23 年度委員会等活動報告会資料（抜粋）

項目	2-4(7) 第三者評価への取り組み状況	
担当	自己点検評価・改善委員会	
年度計画	① 必要に応じ、外部評価委員会を開催し、教育研究上の基本的な計画及び教育研究活動状況、教育方法の改善・教職員の資質向上等について、学外有識者から意見を聴取する。 ② 整備しつつある鈴鹿高専自己点検評価シート作成を通して効率的に自己点検・評価を行う方式の定着を推進する。 ③ 外部の意見を学校運営に反映させるため、参与会を開催する。 ④ 平成24年度の認証評価に向け、その準備を行う。 【追加・修正事項】 【追加】 【修正】	
実績	① 必要に応じ、外部評価委員会を開催し、教育研究上の基本的な計画及び教育研究活動状況、教育方法の改善・教職員の資質向上等について、学外有識者から意見を聴取する仕組みを用意しているが、今年度の開催予定はない。この代わりに参与会を開催し、高い視点からの意見をいただいた。 ② 整備しつつある鈴鹿高専自己点検評価シート作成を通して効率的に自己点検・評価を行う方式の定着を推進する。 ③ 外部の意見を学校運営に反映させるため、参与会を開催した。 ④ 平成24年度の認証評価に向け、その準備を行っている。	
自己評価	全てが十分に実施され、成果が上がっている	自己評定 5
次年度の検討事項		

(出典 委員会等活動報告会資料)

資料 9 - 1 - ② - 14

表 教育に関する学校の構成員及び学外関係者の意見の報告

号数	発行年月	分類	タイトル	ページ
120	H19. 10. 5	総務課	NRC-IFCI・バンクーバーの視察	28-29
〃	〃	FD部会	授業アンケート結果の報告	36-37
121	H20. 2. 20	FD部会	授業アンケートと公開授業	48-49
〃	〃	総務課	今年の教育研究支援室の活動	62-63
122	H. 20. 10. 1	FD部会	授業アンケート結果とその信頼性～FD部会活動報告	22-23
123	H. 21. 2. 18	FD部会	授業アンケート、公開授業、FD講演会の実施について	22-23
124	H. 21. 10. 1	複合型生産システム工学プログラム推進	鈴鹿高専技術者教育 JABEEにより 6 年間の継続認定	13-14
〃	〃	総務課	教育研究支援室の 1 年	54
127	H23. 2. 16	総務課	教育研究支援室、一年を回顧	41-43

(出典 広報誌「鈴風」)

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況に関して、学校の構成員、学外関係者の意見を聴取しており、その結果をもとに関係する部会が自己点検・評価を行い報告書を作成している。満足度評価のアンケートにおいては、moodle

を利用して集計や分析が行いやすく工夫されている。

以上のことから、学校の構成員、学外関係者の意見の聴取を行っており、教育の状況に関する自己点検・評価を適切に行っている。

観点 9-1-③： 各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

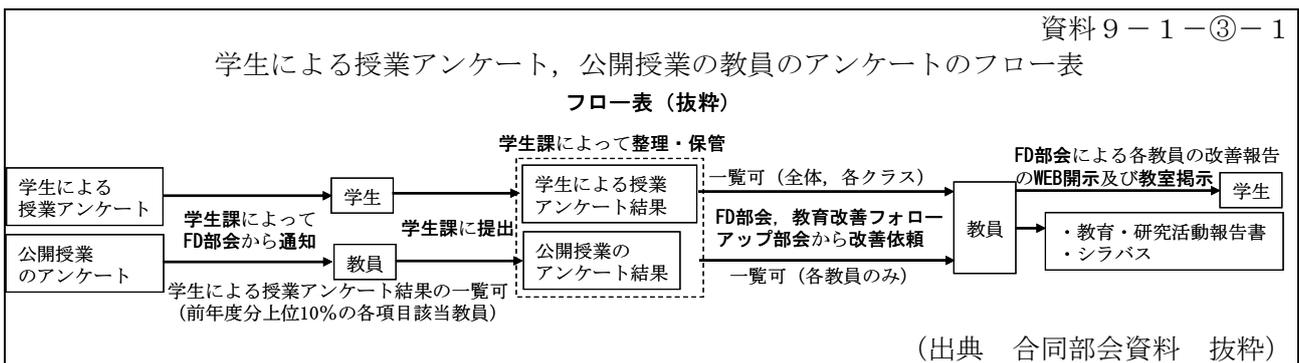
資料 9-1-①-1 のように、自己点検評価・改善委員会の下に教員表彰選考部会、教育改善フォローアップ部会を設置し、教務委員会の下にFD部会を設置している。

例えば学生による授業アンケート結果については、資料 9-1-③-1 のフロー表に沿ってFD部会及び教育改善フォローアップ部会によって適切に授業アンケート方法およびアンケート結果の授業改善の継続的な活用方法が検討され(資料 9-1-③-2~4)、その結果を各教員に報告し、各教員が改善報告するように促すなど、前述したPDCAサイクルに従って分析、改善されている。さらに、カリキュラムなども継続的に検討され報告されている(資料 9-1-③-5)。

学生との意見交換会での意見・要望については、学科や学校で対応している(資料 9-1-③-6)。

自己点検評価・改善委員会によってアンケート調査・評価結果に基づく改善方策やその実施例が示され(資料 9-1-③-7, 8)、さらに、第2期中期目標の改善方策を報告している(資料 9-1-③-9)。

外部評価としてJABEE自己点検書でも報告されている(資料 9-1-③-10)。



資料 9-1-③-2

平成 20 年度第 1 回教務委員会 FD 部会議事要旨（抜粋）

【改正点】

(1) 講義用

「◎この授業内容はわたしにとって」への回答の 5 について

1・・・5：暴しすぎてものたりなかった

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

5：暴しすぎた

修正理由：この質問の他の回答との書き方のバランスを取る

(2) 実験実習用（上の講義用と同様に）

「◎この授業内容はわたしにとって」への回答の 5 について

1・・・5：暴しすぎてものたりなかった

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

5：暴しすぎた

修正理由：この質問の他の回答との書き方のバランスを取る

（出典 FD 部会議事要旨）

資料 9-1-③-3

○ F D 部会が行う授業アンケートの集計結果等の取扱いについて

平成 16 年 8 月 5 日
校長 裁 定

F D 部会が行う授業アンケートの集計結果等の取扱いについて

- 1 F D 部会が行う授業アンケートの収集・整理・蓄積については、個人情報が含まれることから、慎重にこれを取扱うとともに、当該集計された結果データへアクセスできる者については、校長、副校長、F D 部会長、教育改善フォローアップ部会長及び事務担当の情報処理センター井上技術専門職員に限るものとする。
- 2 教養教育科長、学科長又は専攻主任（以下「教養教育科長等」という。）は、それぞれ該当する科目・学科又専攻に関する集計結果データに係る印刷物のみを F D 部会長から入手することができるとともに、その印刷物の取扱いについては教養教育科長等の責任のもとで適切に処理するものとする。
ただし、F D 部会長は、教養教育科長等より要請され、必要性及び妥当性について適当と認めた場合に限り、上記データを電子媒体で渡すことができるものとする。

附 則

この規則は、平成 16 年 8 月 5 日から実施する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から実施する。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ F D 部会が行う授業アンケートの集計結果等の取扱いについて）

平成20年度第2回教育改善フォローアップ部会 議事要旨（抜粋）

1. アンケート内容の改善・方法について

部会長から授業アンケートについて、FD部会に様式等の変更を促す旨提案があり、了承された。変更点は以下のとおり。

【質問の順番について（番号は旧番号，下線部を入れ替え）】

①，②，④（理解の程度を確認したか），⑤（魅力的な授業か），③（質問しやすい雰囲気だったか），⑥（興味や関心を持たせる授業だったか），⑦，⑧の順番に変更。

【アンケート結果一覧表について】

質問①「理解が深まったか」の項目は、各学生の能力によって数値にばらつきが出る。そのため、一覧表の「⑥～⑦の平均」は「⑤～⑥の平均」にしたほうが適当である。

（出典 教育改善フォローアップ部会 議事要旨）

平成 2 3 年度委員会等活動報告会資料 (抜粋)

項目		2-2(1) 教育課程の編成状況	
担当		教務委員会	
年度計画	<p>① 各学科の教育目標により適合する教育課程の検討及び、技術革新を担うことができる高い専門知識を養うため、教育課程の見直しを引き続き行う。平成21年度に機構が実施したカリキュラムに関する調査結果を分析し、それを基に教育内容の改善を継続する。</p> <p>② 鳥羽商船との連携を視野に入れた学科の大括り化やコース制の導入について、その具体化に向け、検討を進める。</p> <p>③ 授業内容や科目の達成目標が学習・教育目標に照らして適切であるか、成績評価方法・評価基準が適切であるかを検討するため、シラバスの点検を引き続き実施する。</p> <p>④ 専門科目の中に技術者倫理教育に関する内容を導入する。</p> <p>⑤ 教育研究活動の全体とエンジニアリングデザイン教育の関連性と系統性の明確化の検討を進め、学科・専攻科におけるエンジニアリングデザイン教育の整備を図る。</p> <p>⑥ 引き続き、学習到達度試験を実施し、数学・物理の教授法向上に反映させる。</p> <p>⑦ 引き続き、ネイティブ教師による少人数教育やTOEICを活用して、学生の英語コミュニケーション能力、発表能力の向上を図る。</p>		
	<p>[追加・修正事項]</p> <p>【追加】</p> <p>【修正】</p>		
実績	<p>① 各学科の教育目標により適合する教育課程の検討及び、技術革新を担うことができる高い専門知識を養うため、教育課程の見直しを引き続き行った。平成21年度に機構が実施したカリキュラムに関する調査結果を受けた「モデルコアカリキュラム」を分析し、それを基に教育内容の改善を継続して行った。</p> <p>② 鳥羽商船との連携を視野に入れた学科の大括り化やコース制の導入について、その具体化に向け、検討した。</p> <p>③ 授業内容や科目の達成目標が学習・教育目標に照らして適切であるか、成績評価方法・評価基準が適切であるかを検討するため、シラバスの点検を引き続き実施した。</p> <p>④ 専門科目の中に技術者倫理教育に関する内容を徐々に導入している。</p> <p>⑤ 教育研究活動の全体とエンジニアリングデザイン教育の関連性と系統性の明確化の検討を進め、学科・専攻科におけるエンジニアリングデザイン教育の整備を進めた。</p> <p>⑥ 引き続き、学習到達度試験を実施し、数学・物理の教授法向上を図った。</p> <p>⑦ 引き続き、ネイティブ教師による少人数教育やTOEICを活用して、学生の英語コミュニケーション能力、発表能力の向上を図った。</p>		
自己評価	全てが十分に実施され、成果が上がっている		自己評定
			5
次年度の検討事項	高専機構が呈示する「モデルコアカリキュラム」を受けて、本校カリキュラムを精査する。		

(出典 委員会等活動報告会資料)

平成 22 年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応（抜粋）

参加者内訳：在籍学生全員および担任教員（各学年毎に実施）

生物応用化学科	学生の意見・要望	学校対応事項	学校への要望事項	学校への要望事項 対応実績
1. 学習・教育目標の内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的かどうか分らない ・学習・教育目標の文言自体が分かりにくい 	<p>2年生以降、年度初めに「学生自身による学習・教育目標の達成度評価アンケート」を実施し、アンケートに記載された具体的な項目を通して、学生が学習・教育目標に対し、どの部分をどれだけ達成したかを認識させる。1年生に対してアンケート自体は実施しないが、アンケートの項目と学習・教育目標の対応について説明する。第1回目の授業時に、授業内容と学習・教育目標がどのように対応しているかを担任教員より学生に説明する。</p> <p>上記「学生自身による学習・教育目標の達成度評価アンケート」を実施する際、担任教員より、学習・教育目標の文言をわかりやすく解説する。</p>	<p>年度初めの「学生自身による学習・教育目標の達成度評価アンケート」の結果、各学年の担任からわかり易く解説した。</p>	<p>年度初めの「学生自身による学習・教育目標の達成度評価アンケート」の結果、各学年の担任からわかり易く解説した。</p>
2. 授業等に關して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワーズ、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	<ul style="list-style-type: none"> (i) シラバス <ul style="list-style-type: none"> ・活用しにくい、授業の内容がシラバス通りでないことがある ・教室前に掲示するのではなく、冊子として配布して欲しい (ii) オフィスアワーズ <ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーズ時に授業に行っても不在の教員が多い (iii) 授業アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとこの画面を選ぶ以外に意見を書く欄が欲しい (iv) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・学年末試験を返してほしい 	<p>年度初めオリエンテーションで録音装置のHPからシラバスのPDFファイルを保存できることを担任教員より学生に周知する。</p> <p>オフィスアワーズ実施時間中、必ず居室で待機し、実施記録も正確につける。</p> <p>授業アンケートにあわせて、授業に対する自由な意見(要望)を別紙を配布して記述させる。</p> <p>答案採番に支障をきたすため、次年度の4月中であれば閲覧を希望する学生に対し、各専門教科ごとに対応する。</p>	<p>各科目でシラバスの記布あるいは解説を実施した。</p> <p>各学年の担任から周知した。</p> <p>出張等を除いて、オフィスアワーズを遵守し、実施状況を記録している。</p> <p>各専門科目において実施し、改善に努めた。</p> <p>前期修了科目において閲覧希望があり、対応した。</p> <p>年度初めオリエンテーションで周知した。</p>	<p>各科目でシラバスの記布あるいは解説を実施した。</p> <p>各学年の担任から周知した。</p> <p>出張等を除いて、オフィスアワーズを遵守し、実施状況を記録している。</p> <p>各専門科目において実施し、改善に努めた。</p> <p>前期修了科目において閲覧希望があり、対応した。</p> <p>年度初めオリエンテーションで周知した。</p>
3. 教養課程および学生を支援するシステム(特別担任制、学生相談室、厚生施設、学業、図書館、自主学習スペース、コンピユータなど)について	<ul style="list-style-type: none"> ・特別担任制、館内が騒がしく、飲食する者もいる、他 	<p>年度初めオリエンテーションで、0科の学生相談室が誰かを担任教員より学生に周知する。</p> <p>特活等で図書館を利用する際のルールを改めて学生に周知する。</p>	<p>特別担任制等について、学生に周知した。</p> <p>学生相談室の担当者から周知した。</p> <p>図書館のルールを改めて学生に周知した。</p>	<p>特別担任制等について、学生に周知した。</p> <p>学生相談室の担当者から周知した。</p> <p>図書館のルールを改めて学生に周知した。</p>
4. 教育に対する学生の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・講義が難しい(1・2年生よりの意見) ・実験に習った事柄が、どのように授業(社会)で役に立っているのか、結びつけてほしい 	<p>どのよう講義が難しいのか担任等と協力して調査したのち、教養教育教員および0科教員と意見交換する。</p> <p>事例紹介が可能な科目については折に触れて実施する。</p>	<p>2年生の専門科目で補講を実施(予定した)。</p> <p>多くの専門科目で事例紹介した。</p>	<p>2年生の専門科目で補講を実施(予定した)。</p> <p>多くの専門科目で事例紹介した。</p>

(出典 合同部会資料)

資料 9-1-③-7

平成 24 年 第 1 回 自己点検評価・改善委員会 議事要旨（抜粋）

2. 「アンケート調査・評価結果」及び「合同部会報告」に基づいて、以下の改善方策が了承された。

- ① 「各種資格取得支援」として、本校ウェブサイトにて技術者資格の取得に関する情報を登録するなどの支援策を講ずる。
- ② 卒業・修了時に身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力をまとめた「学習・教育目標」の達成度の進捗状況や弱点等を学生自身が把握して、達成度の向上に役立つように改善するため、達成度自己評価に用いる「達成度評価シート」の評価項目及び達成度自己評価の実施方法等を見直す。
- ③ 学外関係者に対する意見の聴取あるいは学外関係者による各種の評価等のアンケート調査に関して、従来の郵送による調査から、学外関係者へ電子メールで依頼し本校ウェブサイト上で回答する調査方法に変更することで、アンケート回答率が著しく向上した。今後も的確な外部評価等を実施するため、アンケート回答率の向上に努める。

3. 「アンケート調査・評価結果」は、本校の自己点検・評価改善システム（P D C A サイクル）に基づき、関係する各委員会・分科会・部会・各学科・専攻科等における改善に資するため、本校ウェブサイトにて共有化することにした。

（出典 自己点検評価・改善委員会資料）

本校ウェブサイト（生物応用化学科）の資格情報について（抜粋）

学生の皆さんへ

現在生物応用化学科に在籍している学生の皆さん向けのページです。下のメニューから見たいコーナーを選んでください。



技能審査について

鈴鹿高専在学中に取得した場合に単位として認定される「技能審査」があります。これらのうち、生物応用化学科の教育や卒業後の職種と関係の深いものについて紹介します。

- (1) 危険物取扱者(甲種)： 2単位が認められます。
一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設において、危険物を取り扱うためには、必ずこの国家資格を持つ人間が業務に従事しないといけません。特に甲種危険物取扱者は、全類の危険物について、取り扱いと定期点検、保安の監督ができます。将来化学会社に勤めることになった場合、この資格を持っていると任される業務の幅が広がります。
受験申請にあたっては書面申請と電子申請の2通りの方法があります。書面申請する場合は消防署で願書を手入できます。電子申請する場合は(財)消防危険研究センターのホームページより行えます。
三重県内での受験情報（受験時期、申請期間、受験場所）については (財)消防危険研究センター三重県支部にアクセスし、確認してください（三重県支部サイト内の「試験日程」「試験案内」に詳しい情報が記載されています）。
- (2) 毒劇物取扱者： 1単位が認められます。
毒物及び劇物の輸入、製造や販売を行い、管理・監督するのに必要な国家資格です。この資格を持っていると、毒劇物を扱う化学会社などで毒物劇物取扱責任者になることができます。
平成24年度、三重県では8月5日(日)に「メッセウイング・みえ」において試験が行われます。申込期間は6月25日～29日で、申込用紙は6月11日～29日に保健福祉事務所(保健所)などで入手できます。
詳しい情報は [三重県のウェブサイト](#) で確認してください(4月20日付新着情報)。(平成24年度受験案内)
- (3) TOEIC(R)テスト* 得点に応じて1～6単位が認められます(IPテストでも可)。
英語による幅広いコミュニケーション能力を問う試験で、高得点をとると、海外勤務や海外留学などをする際に有利に働くほか、より短期的なメリットとしては、高得点を持っていると就職活動で有利に働くことが挙げられます。また、最近では編入学試験の際に英語の問題を出すだけでなくTOEIC(R)テストの得点で受験生の英語力を判断する大学も増えつつあります。ただし、企業や大学が履歴書・願書にTOEIC(R)テストの得点を記入することを指定してきた場合、高専内で行われるIPテストの得点は認められないことが多くあります。募集要項などをよく確認し、必要に応じて年に9回実施される公開テストを受験してください。
受験情報については [TOEIC\(R\)公式サイト](#) にアクセスして確認してください。

* TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS). This website is not endorsed or approved by ETS.

(出典 本校ウェブサイト)

資料 9 - 1 - ③ - 9

第 2 期中期目標期間 改善方策 (抜粋)

鈴鹿高専 第 2 期中期目標期間 (平成 21 年 4 月～平成 26 年 3 月) においては、外部評価委員からの提言に加え、第 1 期中期目標・中期計画の達成状況の自己評価結果及び第 2 期中期目標・中期計画に基づいて、教育研究活動及び管理運営等の活動全般の改善を実施する。

中期計画(第 1 期)	問題点等及び改善実績概要
<p>1-4 教育の質の向上及び改善の状況</p> <p>1-4 (1) e-learning 等教材の開発, 学習効果等の評価状況</p> <p>新たな教育教材を研究開発するため、他高専の協力を得て、自然科学系科目の e-learning 教材を開発し、その学習効果等を評価する。</p>	<p><問題点等></p> <p>e-learning 教材を用いた「実践工業数学」の実施、eHELP の質の保証の検討、掲示板共有システムの試験的運用、その他 ICT 活用教育教材の充実を図っている。e-learning の学習効果を評価するためのシステムの構築や運用がなされていないが、様々な取り組みやその試行を行っている。</p> <p><改善実績概要></p> <p>Moodle 等を用いた新しい情報処理教育の充実に取り組んでいる。特に、Moodle の活用事例が増加した。</p>

中期計画 (第 1 期)	中期計画 (第 2 期)
<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>ア 新たな教育教材を研究開発するため、他高専の協力を得て、自然科学系科目の e-learning 教材を開発し、その学習効果等を評価する。</p>	<p>(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>ア 新たな教育教材を研究開発するため、他高専の協力を得て、自然科学系科目の e-learning 教材等を開発し、<u>教材として活用しながらその効果等を評価する。</u></p> <p>イ <u>JABEE の認定プログラムを改善を加えつつ実施し、不断に教育の質の向上を図る。</u></p> <p>ウ <u>多様な方法で学校の枠を超えた学生の交流活動を推進する。</u></p>

(出典 外部評価改善報告書)

資料 9-1-③-10

JABEE 自己点検書(pp. 97-108, 本文編 pp. 59-70) (抜粋)

基準 6 : 教育改善

6. 基準 6 : 教育改善

本プログラムは、資料 6-1-1 に示す自己点検評価・改善システムを有している。すなわち、学習・教育目標 (PLANNING) の達成に向けて行った教育活動 (DO) の点検結果 (CHECK) を受けて、その改善に向けた対処を促し (ACTION), それを受けて対応策を講じる (RE-PLANNING)。そしてその策定された改善策に則った教育活動を行い (DO), その成果をまた点検評価する (CHECK)。つまり、本プログラムにおける自己点検評価と改善の流れは、連続した一つのシステムを構成している。

⋮

一次審査報告書(p. 15) (抜粋)

番号	点検項目	前回判定	一次審査	根拠・指摘事項
6	基準 6 教育改善			
6.1	6.1 教育点検			
6.1(1)	学習・教育目標の達成度の評価結果等に基づき、基準 1-5 に則してプログラムを点検する教育点検システムがあり、その仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が実施されていること。	A-	A	自己点検評価・改善委員会の下に、Check の点検評価部会と Action の教育改善フォローアップ部会を設置している。PDCA サイクルを意識した組織づくりになっており基準を満たしている。
6.1(2)	教育点検システムは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、システム自体の機能も点検できるように構成されていること。	A-	A	外部評価委員会での意見を組み入れて、組織を単純化している。また、学生との「意見交換会」、「校長意見箱」で得られた意見を十分に生かしている。さらに3年に1回のアンケート調査により卒業生や修了生によるカリキュラム点検が実施され、基準を満たしている。
6.1(3)	教育点検システムを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。	A-	A	議事録は開示されている。また「校長意見箱」の回答はWEB上に公開され基準を満たしている。
6.2	6.2 継続的改善			
6.2(1)	教育点検の結果に基づき、基準 1-6 に則してプログラムを継続的に改善するシステムがあり、それに関する活動が実施されていること。	WC	A	プログラムを継続的に点検するPDCAサイクルがあり、また種々の部会で ACTION, REPLANNING が実施されていた。実践的英語教育では、3年生の少人数英語教育を専攻科1年生にまで拡大しており、基準を満たしている。

審査結果と指摘事項 4 / 5

(出典 JABEE 自己点検書)

(分析結果とその根拠理由)

教員表彰選考部会、教育改善フォローアップ部会、及びFD部会が設置され、各種アンケートについてその方法や改善への活用が検討され、各教員によって改善報告がなされているなど、評価結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムを十分整備し、カリキュラムなどについても継続的に分析及び改善がなされるなど教育課程の見直しに方策を十分講じている。

観点 9-1-④： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

資料 9-1-③-1 のフロー表のように、例えば、毎年前期・後期の 2 回実施される学生による授

業アンケート結果は、各教員に返却され、各教員によってその結果を分析し授業改善内容を決めそれを学内に公開（資料 9-1-④-1）している。授業改善は、前期・後期の通年科目については、前期の分の結果を受けて後期授業前に改善報告を行い、後期アンケート結果で確認を行う。前期・後期のみの科目については次年度以降の学生のアンケート結果で改善されているかの確認を行うなど、継続的な改善がPDCAサイクルに従って実施させている。さらに、この確認結果は、教育・研究活動報告書においても報告されている（資料 9-1-②-1）。非常勤講師も授業アンケートを実施しており、了解が得られれば授業公開も行っている（資料 9-1-④-2）。全ての科目のアンケート結果（資料 9-1-②-2）は学校として把握しており、このアンケート評価が悪い場合は教育改善フォローアップ部会の部会員によって授業参観が実施されている（資料 9-1-④-3）。

平成 2 3 年度 改善結果 (改善策の良否)

[【学外向けページへ戻る】](#)

学内向けの情報です。学外には公開していません。

学生向け情報

- WebMail (学外からも閲覧できます)
- 就職・進学(編入、大学院進学)案内
- 平成24年度インターンシップ (学内のみ)
- 専攻科生へのおしらせ
- 学生支援室案内
- 奨学金関係の情報提供

授業改善

- [目標・改善方針](#)

校長意見箱

- [回答一覧](#)

ネットワークに関する情報

- [情報処理センター](#)
- [学内掲示板](#)
- [情報倫理ガイドライン](#)

教職員用情報

- [教職員のページ](#)
- [どこでも電子メール2](#)
- [携帯電話用WebMail](#)

授業目標・改善方針

◇目標・改善方針

毎年行なっています授業アンケートを授業改善に活用するため、アンケート結果を基に各教員の授業改善の方針を示します。

<平成24年度版>

一般	人文社会	数学	理科	体育・武道	外国語
専門	M	E	I	C	S

<平成23年度版>

一般	人文社会	数学	理科	体育・武道	外国語
専門	M	E	I	C	S

(PDFファイルです。所属をクリックしてください。)

最終更新日2009/12/09

<平成 2 3 年度版> 記載例 (抜粋)

材料工学科

教員氏名	科目名	学年 クラス	目標・改善方針	改善結果(改善策の良否)
	材料強度学	3S	授業内容の理解を深めるために、演習問題を多く取り入れるとともに、板書についても丁寧にわかりやすくする。	演習問題をたくさん取り入れるようにしたが、授業時間の制約もあり未だ不十分であった。
	非鉄金属材料	4S	理解を深めるために、最新のトピックスなどを多く取り入れて学生の興味を深めるようにする。	最新のトピックスを多く取り入れ、新聞等の科学技術面の記事への関心が深まる授業であったと考える。
	生産設計工学	2DB	修得知識の異なる学生の混在クラスであるため、出来るだけ共通の事例を取り入れ興味を持たせるように工夫する。	DB混在授業であり、興味がそれぞれ異なり共通の事例を探すのに苦労したが、それなりの成果は得られた。
	エコマテリアル	2B	地球環境問題と合わせて、我々が直面している課題に対し、材料技術としてどのように対処するか身近なトピックスを多く取り入れるようにし、理解を図る	グローバルな観点からの地球環境問題への関心を持てるような授業ができたと考える。
	熱力学	3S	授業内容の理解を徹底するために、演習問題を多く行い、その答え合わせも時間をかけて行う。	演習問題を多く取り入れた授業を実施したが、まだ十分ではなく、試験前に質問に来る学生が多く見られた。
	材料表面工学	5S	板書を判りやすくするため、黒板を分割して、大きな字で書くようにする。	黒板を分割してわかりやすくなった。おむねアンケートの評価は、良好であった。
	材料機器分析	5S	板書を判りやすくする。分析の原理をわかりやすく説明する。	黒板を分割してわかりやすくなった。原理図の説明に更なる改善が必要と感じた。
	材料環境科学	5S	環境問題について自分の力で考えるように、調査・発表の形式にする。環境問題の理論的バックグラウンドを説明する。	環境問題の調査をさせることで、自分で考えるように仕向けた。ある程度の効果は、出たと思われる。しかし、調査発表のやり方に更なる改善が必要である。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ)

資料 9-1-④-2

平成 22 年度前期授業アンケート結果 上位 10% の授業一覧 (抜粋)

平成22年度前期授業アンケート結果 上位10%の授業一覧(同点多数あり)

①先生の言葉は、はっきり聞こえましたか？		②黒板(またはOHP等)の文字は、見やすかったですか？		③先生は一方的に授業を進めず、理解の程度を確認しつつ授業を進めましたか？		④先生は教え方などを工夫し、わかりやすく説明していると思いませんか？		⑤授業中、質問しやすい雰囲気でしたか？	
1I英語 I A	4.8	2C国語 II	4.9	2C国語 II	4.4	2E国語 II	4.5	2C国語 II	4.3
1S英語 I A	4.9	2E国語 II	4.8	2E国語 II	4.5	2M国語 II	4.4	2E国語 II	4.4
2C英語 II B	4.8	2M国語 II	4.7	2M国語 II	4.5	4A言語表現学 I	4.4	2M国語 II	4.3
4EIS英語 IV A	4.8	4A言語表現学 I	4.6	4A言語表現学 I	4.4	2C英語 II B	4.4	4A文学概論 I	4.5
2M微分積分 I	4.9	1C国語 I B	4.8	1E国語 I B	4.6	2M英語 II B	4.4	2E微分積分 I	4.5
2S微分積分 I	4.8	1E国語 I B	4.8	1M国語 I B	4.5	1M英語 I A	4.4	2M微分積分 I	4.6
3C微分積分 II	4.8	1I国語 I B	4.6	2E微分積分 I	4.4	2E微分積分 I	4.5	1C物理	4.5
2C生物	4.9	1M国語 I B	4.7	2M微分積分 I	4.8	2M微分積分 I	4.7	2C生物	4.7
⋮									
5S材料保証学	4.8	5C化学工学 II	4.6	5C生物情報工学	4.4	1C化学	4.4	4C微生物学 II	4.6
5C英語 V	4.8	4C微生物学 II	4.8	1C化学	4.5	2B高分子化学特論	4.6	4C精密合成化学	4.3
5I英語 V	4.8	2C有機化学	4.6	2B高分子化学特論	4.8	5C機能材料工学	4.4	5S塑性加工	4.3
4C反応工学	4.8	5C有機工業化学	4.7	4C微生物学 II	4.6	2B生体機能工学	4.4	4S材料物理化学 I	4.3
3S日本文学	4.8	3S日本文学	4.7	2C有機化学	4.5	4C微生物学 II	4.6	5S材料表面工学	4.4
ICS音楽	4.9	3C英語 III	4.6	4S材料物理化学 I	4.4	2C有機化学	4.5	1B相変換工学	5.0



網かけ の科目は前期のみ開講等、公開授業を実施しない科目

⑥興味や関心を持たせる様な授業でしたか。魅力的な授業だと思いませんか？		⑦この授業によって、この分野の理解が深まったと思いませんか？		⑧今までに出された成績について、評価は適切であったと思いませんか？		⑨あなたはこの授業に真剣に取り組みましたか？	
2E国語 II	4.3	2E国語 II	4.4	1S英語 I A	4.6	2C微分積分 I	4.6
4A文学概論 I	4.5	4A文学概論 I	4.4	2C英語 II B	4.7	2I微分積分 I	4.6
4A言語表現学 I	4.4	2C英語 II B	4.4	2C微分積分 I	4.6	2E微分積分 I	4.8
1S英語 I A	4.6	2C微分積分 I	4.4	2M微分積分 I	4.7	2M微分積分 I	4.6
2M英語 II B	4.3	2E微分積分 I	4.6	2C生物	4.9	3C微分積分 II	4.6
2E微分積分 I	4.5	2M微分積分 I	4.6	2E生物	4.8	5M弾性学	4.6
2M微分積分 I	4.7	2C生物	4.8	2I生物	4.6	5M熱工学	4.6
2C生物	4.8	2E生物	4.7	2M生物	4.6	4E半導体工学	4.6

(出典 学生課資料)

資料 9-1-④-3

平成 20 年度第 2 回教育改善フォローアップ部会 議事要旨 (抜粋)

2. 評価の低かった教員の授業参観について

部会長から前期授業アンケートにおいて評価が低かった教員の授業を、部会員が参観する旨提案があり、了承された。

(出典 教育改善フォローアップ部会 議事要旨抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

学校として把握している各種アンケート結果にしたがって、各教員は授業改善を継続的にを行い、その結果は本校ウェブサイトで公開するとともに、教育・研究活動報告書にもその分析と改善について記載されるなど学校としても把握している。非常勤講師については、改善報告は義務づけていない。アンケート評価が低い場合は教育改善フォローアップ部会の部会員によって授業参観が実施されるようになっている。

以上のことから、各教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を十分行っている。また、学校としてこれらの改善活動状況を十分把握している。

観点 9-1-⑤： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

高専教育講演論文集の中の教育研究（資料 9-1-⑤-1）及び研究紀要の教育論文（資料 9-1-⑤-2）に示すように複数年にわたり研究が続けられており、これらの研究で得られた知見は授業方法の改善に役立てられている。個々の教員は学会に所属し、専門誌を購読する（資料 9-1-⑤-3）とともに、学術研究活動（資料 9-1-⑤-4）により得られた新しい知見等は第 4 学年の創造工学や第 5 学年の卒業研究、専攻科の特別研究へフィードバックされ、その成果は学生の外部発表件数（資料 9-1-⑤-5）に表れている。

教員の学術研究活動により得られた成果の一部は、それぞれの教員が担当する授業にも反映されている（資料 9-1-⑤-6）。

資料 9-1-⑤-1

教育研究 高専教育講演論文集

年度	氏名	論文題目等	ページ
19 (第 31 号)	小倉 弘幸 他 10 名	鈴鹿高専における実践的燃料電池技術者の育成 具体的な改善の例として「概要」 The purpose of this study is to conduct the educational trainings for the students to be the engineer in the field of fuel cell technology. Here, these include fundamental knowledge of electrochemistry, following actual fabricating the single cell, and evaluating the characteristics. The training process from basic knowledge to actual cell experiment will cultivate ability of the students. These programs are expected with contributing to growing the human resources, which will accelerate the practical application of fuel cells. In addition, it will also be helpful for faculty teaching member to grade up and activate their educational and researching ability. (以下省略)	171-176
20 (第 32 号)	白井 達也 他 2 名	日本語 Windows で動作可能な Moodle の開発	303-308
21 (第 33 号)	日下 隆司 他 2 名	英語コミュニケーション能力の育成に向けた少人数教育の再考と展望	127-132
22 (第 34 号)	澤田 善秋 他 3 名	バイオディーゼル燃料の合成を通じた環境教育の試み	411-416
23 (第 35 号)	箕浦 弘人 他 7 名	情報系工学実験テーマの改善	13-18
	浦尾 彰 他 3 名	マルチメディア学習理論に基づく電子教材の開発と評価	86-90
	ローソン・マイケル 他 2 名	Practice of Presentation-Oriented Class in The Advanced Engineering Course	377-381
	平野 武範 他 7 名	中学生を対象としたものづくりの試み—模型自動車の赤外線制御—	413-418

(出典 論文集「高専教育」)

教育研究 鈴鹿工業高等専門学校 紀要

年度	氏名	論文題目等	ページ
19 (第 41 卷)	西岡 將美	高専国語教育で何を教えるか—「新入生学力検査」結果をふまえて— 具体的な改善の例として「概要」 高専における国語教育は、学生の「生きる力」の育成が最終目標である。具体的な学習目標は、「読解力」「自己表現力」の向上が一番に挙げられる。各学年にふさわしい授業を展開しながら、実際の授業の魅力度を増すことが、学生の国語力向上に繋がっていくのであろう（以下省略）	15-22
	日下 隆司 他 2 名	英語コミュニケーション能力の育成に向けた少人数制授業の試み—『英語特講』における課題と展望—	23-30
20 (第 42 卷)	西岡 將美	新入生学力検査「国語」を実施して—10 年間の結果を通してみた教科指導のあり方—	1-9
	出口 芳孝 中井 洋生	英語教育における E-learning 活用状況の調査	17-24
	北村 登 鈴木 昌一	電気工事士技能試験対策とその効果	33-36
	西村 一寛 他 4 名	ものづくり教育のための磁石教材—反発磁石を利用した振動のリミットスイッチの製作—	43-47
21 (第 43 卷)	西岡 將美	新入生「国語」学力診断検査の結果分析—新入生の「国語力」を探る—	11-18
	日下 隆司 マイケル・ローソン	少人数教育の可能性と TOEIC スコアについての考察	39-48
	柴垣 寛治 他 6 名	インパルス電圧発生装置を用いた学生実験および特別研究の改善	55-61
22 (第 44 卷)	西岡 將美	新入生「国語」学力診断検査の結果分析(2)—新入生の「国語力」を探る—	9-18
	大貫 洋介	線形代数学における既習学力の定着度について	19-24
	近藤 一之 他 4 名	学生により分かりやすい電子回路教育を目指した取り組みの報告	37-43
	大津 孝佳	電子デバイスの静電気対策技術と電磁気学教育—サイエンスカフェ（電荷・電流・電磁波）の試み—	45-49

(出典 鈴鹿工業高等専門学校紀要)

平成 23 年度 教員の所属学会及び購読雑誌

所属	教員	所属学会, 協会	購読雑誌
教 養 教 育	西岡	萬葉学会, 皇學館大學人文学会,	国文学 (学燈社), 日本語学 (明治書院), 月刊国語教育 (東京法令出版), 月刊国語教育研究 (日本国語教育学会編)
	久留原	日本近代文学会, 筑波大学国語国文学会, 三重県歌人クラブ、三重近代文学研究会	短歌, 短歌研究
	石谷	日本近代文学会, 日本近代文学会・東海支部, 日本近代文学会・関西支部, 解釈学会, 三重近代文学研究会	国文学, 日本文学, 日本近代文学, 解釈
	奥		Phronesis, Classical Philosophy
	小倉正	史学会, 東洋史研究会, 東北中国学会	史学雑誌, 東洋史研究
	安富	日本数学会、日本教育工学会	
	伊藤清	日本数学教育学会	
	堀江	日本数学会	Nagoya Mathematical Journal, Journal of the Mathematical Society of Japan
	川本	日本数学教育学会, 日本科学教育学会, 全国数学教育学会, 日本工学教育協会	
	大貫	日本数学会, 日本高専学会	Journal of the Mathematical Society of Japan, 日本高専学会誌
	土田	日本生物物理学会、日本物理学会	
	山崎	日本化学会, 触媒学会	化学と工業, 触媒
	田村	日本物理学会, 日本生物物理学会, 日本機械学会	日本物理学会誌, 日本生物物理学会誌, 日本機械学会誌
	仲本	日本物理学会	日本物理学会誌
	丹波	日本物理学会, 日本生物物理学会, 日本生化学会, Biophysical Society	
	三浦	日本物理学会, 日本中性子科学会	日本物理学会誌, 日本中性子科学会誌
細野	日本体育学会, 東海体育学会, 日本武道学会	剣道日本, 剣道時代, 剣窓	

資料 9-1-⑤-3 続き

所属	教員	所属学会, 協会	購読雑誌
教 養 教 育	船越	日本体育学会, 東海体育学会, 三重陸上競技協会, 日本スプリント学会	トレーニングジャーナル, 陸上競技マガジン, 致知
	森誠	日本体育学会, 日本水泳・水中運動学会, 日本コーチング学会	
	出口	米計算機言語学会, 日本言語学会, 全国高等専門学校英語教育学会	Language, Linguistics
	中井	日本英語学会, 全国高等専門学校英語教育学会	Language, English Journal
	林	中部地区英語教育学会, 全国英語教育学会, 神戸英語教育学会, 全国高専英語教育学会	TESOL Quarterly, 英語教育, CNN English Express, English Zone
	Lawson	American Sociological Association, Alpha Kappa Delta, Great Plains Sociological Association	American Sociological Review, English Express, TIME
	日下	日本英文学会, 日本アメリカ文学会, 中・四国アメリカ文学会, 日本ナサニエル・ホーソン協会, 全国高等専門学校英語教育学会	TOEIC Test プラスマガジン, 英文学研究, アメリカ文学研究, The Journal of the American Literature Society of Japan, フォーラム, 中・四国アメリカ文学研究
	松尾	日本シェイクスピア学会, 日本英文学会	Shakespeare Quarterly, 現代思想、悲劇喜劇
機 械 工 学	埜	日本機械学会, 日本計算工学会	日本機械学会誌, 計算工学
	佐脇	日本機械学会, 日本計算工学会	
	近藤邦	日本機械学会, 自動車技術会, ターボ機械協会, 日本工学教育協会	日本機械学会誌, 自動車技術, ターボ機械
	末次	日本機械学会, 日本非破壊検査協会, 日本実験力学会	非破壊検査
	民秋	日本機械学会, 日本材料学会, 日本複合材料学会	日本機械学会誌, 材料, 複合材料学会誌
	藤松	日本機械学会, 日本設計工学会, 日本混相流学会, 日本液体微粒化学会, 可視化情報学会, 日本伝熱学会, 東海流体熱工学研究会	日本機械学会論文集, 可視化情報, 微粒化, 混相流, Trans. of the ASME, Int. J. of Multiphase Flow, JSME International Journal (Fluids and Thermal Engineering Series), 機械の研究, 設計工学, 工学教育
	白井	日本ロボット学会, 日本機械学会, 日本人間工学会, 日本福祉工学会	日本ロボット学会誌, 日本人間工学会誌, 日本福祉工学会誌, トランジスタ技術
	白木原	日本機械学会, 日本材料学会	

資料9-1-⑤-3続き

所属	教員	所属学会, 協会	購読雑誌
機 械 工 学	打田	日本機械学会, 電気学会, 計測自動制御学会	
	富岡	日本機械学会, 日本ロボット学会, 日本高専学会, 日本自然科学写真協会	
電 気 電 子工学	北村	電子情報通信学会	電子情報通信学会誌, R i K a T a n, エレキジャック
	花井	日本顕微鏡学会, 電気学会, 応用物理学会	Journal of Electron Microscopy
	近藤	電子情報通信学会, I E E E (米国電気電子学会), 計測制御学会, 映像情報メディア学会	I E E E 論文誌 (C A S, I M), 電子情報通信学会誌
	伊藤 _保	電気学会, 計測自動制御学会	電気学会誌 (電力応用部門), 計測自動制御学会誌
	奥田	計測自動制御学会, 日本ロボット学会, 応用物理学会	
	川口	電気学会, 電子情報通信学会, 情報処理学会	電気学会誌, 電子情報通信学会誌, 情報処理学会誌
	西村	日本磁気学会, 電気学会, I E E E Membership, I E E E Magnetics Society Membership	電気学会誌, 電気学会論文誌A, まぐね, 日本磁気学会誌, I E E E spectrum, ロボコンマガジン, 電子工作マガジン
	柴垣	応用物理学会, 電気学会, レーザー学会, プラズマ・核融合学会	
	奥野	電気学会	電気学会誌
辻	応用物理学会, 電子情報通信学会	応用物理学会誌, 電子情報通信学会誌	

資料 9-1-⑤-3 続き

電 子 情 報 工 学	桑原	情報処理学会, 計測自動制御学会, 人工知能学会, 質量分析学会, 東海工学教育協会	
	井瀬	電子情報通信学会	電子情報通信学会誌, 電子情報通信学会論文誌 (C), 日経エレクトロニクス
	伊藤 ^明	電子情報通信学会, 計測自動制御学会	計測自動制御学会誌, トランジスタ技術, エレキジャック
	田添	言語処理学会, 情報処理学会, 人工知能学会	自然言語処理 (言語処理学会誌), 情報処理 (情報処理学会誌), 人工知能学会誌, Software Design, UNIX MAGAZINE
	渥美	情報処理学会, 電子情報通信学会, IEEE Computer Society	情報処理学会会誌, 情報処理学会論文誌, 情報処理学会研究会報告 (IOT, SEC, CE)
	箕浦	電子情報通信学会, 情報処理学会, 日本バーチャルリアリティ学会, ヒューマンインターフェース学会, International Society on Virtual Systems and MultiMedia	情報処理学会論文誌, 電子情報通信学会論文誌:情報・システム II-パターン処理, 日本バーチャルリアリティ学会論文誌, ヒューマンインターフェース学会論文誌, ヒューマンインターフェース学会研究報告集, International Journal of Human Computer Interaction, 映像情報, O plus E
	青山	情報処理学会, 日本バイオインフォマティクス学会, 日本医真菌学会	
	森 ^育	電子情報通信学会, 計測自動制御学会, IEEE	
	浦尾	電子情報通信学会, 日本教育工学会, 日本工学教育協会	電子情報通信学会論文誌 (情報・システム : D), 日本教育工学会論文誌, 工学教育
	和田 ^孝	システム制御情報学会, 計測自動制御学会, IEEE, SIAM, INFORMS	
生 物 応 用 化 学	富澤	日本化学会, アメリカ化学会, 日本油化学会, 東海化学工業会, 東海工学教育協会	オレオサイエンス
	内藤	日本薬学会, 日本生化学会, 医学・生物学速報会	生化学, ファルマシア, 医学と生物学, 蛋白質・核酸・酵素

資料9-1-⑤-3 続き

生物応用化学	生貝	日本細菌学会, 日本化学療法学会, 日本農芸化学会, 日本防菌防黴学会, (社) 日本鉄鋼協会, 毒素シンポジウム, 日米医学協力研究会 コレラ・細菌性腸管感染症専門部会, (社) 日本鉄鋼協会 『バイオフィルムと鉄鋼材料の相互作用』研究会, 日本感染症学会, 軽金属学会	日本細菌学雑誌, 実験医学, 細胞工学, 日本化学療法学会誌, 化学と生物, 日本防菌防黴学会誌, ふえらむ, 感染症学会誌, 軽金属
	澤田	化学工学会	化学工学論文集
	長原	日本化学会, 有機合成化学協会, 光化学協会, 電気化学会, 日本工学教育協会	Chemistry Letters, 有機合成化学会誌, 光化学, 電気化学および工業物理化学, 日本工学教育協会誌
	下野	日本セラミックス協会, 日本化学会, 日本高専学会, 電気化学会, 日本水泳・水中運動学会	日本セラミックス協会誌, 化学と教育 (日本化学会), 電気化学会誌
	高倉	日本化学会, アメリカ化学会, 日本油化学会	オレオサイエンス
	山本	高分子学会, 日本化学会, セルロース学会, アメリカ化学会, 日本工学教育協会	高分子, 化学と工業, Cellulose Communications, Chemical & Engineering News, 工学教育
	小川	日本生物工学会, 日本農芸化学会, 化学工学会, 日本動物細胞工学会	
	山口	日本動物学会, 日本発生生物学会, 日本分子生物学会	
	船越	化学工学会, AIChE, 分離技術会, 日本結晶成長学会, 光機能材料研究会	
	甲斐	廃棄物資源循環学会 日本 LCA 学会	廃棄物資源循環学会誌 日本 LCA 学会誌
材料工学	国枝	日本金属学会, 電気化学協会, 資源素材学会, セラミックス協会, 紛体および粉末冶金協会, 表面技術協会	日本金属学会会報, 電気化学, 表面技術, 資源と素材
	井上	軽金属学会, 工学教育, 日本熱処理技術協会, 日本高専学会, 日本鑄造工学会	日本金属学会誌, 軽金属学会誌, 工業材料 (月刊), グリーンレポート (月刊)
	江崎	日本金属学会, 日本鉄鋼協会, 日本工学教育協会	日本金属学会会報「まてりあ」, 日本鉄鋼協会会報「ふえらむ」, 工学教育
	宗内	電気化学会, Journal of Electrochemical society, 高分子学会, オゾン協会	Journal of Electrochemical society, 電気化学, オゾン協会

資料 9-1-⑤-3 続き

材 料 工 学	兼松	The Minerals, Metals & Materials Society (TMS), American Chemical Society (ACS), ASM International, National Association for Surface Finishing (NASF), Institute of Metal Finishing (IMF), アメリカ工学教育協会(ASEE), 日本金属学会, 日本鉄鋼協会, 表面処理技術協会, 熱処理技術協会, 東海化学工業会, 日本工学教育協会, 産業考古学会	Journal of Applied Surface Science, Transactions of IMF, JOM, 金属学会報・金属学会誌, 表面技術協会誌, 熱処理, 東海化学工業会会報, 鉄鋼協会会報ふえらむ, Prism (米国工学教育協会会報), 米国工学教育協会誌
	小林	日本金属学会, 日本高専学会, 日本工学教育協会	日本金属学会報「まてりあ」, 工業材料, 金属, 日本高専学会誌, 工業教育
	下古谷	日本化学会, 日本農芸化学会, 日本生化学会, 日本東洋医学会, セルロース学会	Bioscience Biotechnology and Biochemistry, 化学と工業, 化学と生物, Cellulose Communications, 化学, 現代化学, 日本東洋医学雑誌, 化学と教育, 医学と生物学
	南部 ^智	日本金属学会	日本金属学会誌
	和田 ^憲	日本セラミックス協会, 日本化学会, 応用物理学会, 資源・素材学会, 電気化学会溶融塩委員会	セラミックス (日本セラミックス協会), Journal of the Ceramic Society of Japan (日本セラミックス協会), 化学と工業 (日本化学会), 応用物理学会誌 (応用物理学会), Journal of MMIJ(旧: 資源と素材, 資源素材学会), 溶融塩および高温化学(溶融塩委員会)
	黒田	日本金属学会, 日本鉄鋼協会, 軽金属学会, バイオマテリアル学会, 日本材料学会, 日本機械学会, 日本熱処理技術協会, 腐食防食協会, 日本高専学会	まてりあ, ふえらむ, 軽金属, 材料, 日本機械学会誌, バイオマテリアル-生体材料-, 熱処理, 材料と環境, 日本高専学会誌
	万谷	日本金属学会, 日本鉄鋼協会	まてりあ, ふえらむ, チタン
幸後	日本化学会, 電気化学会, 高専学会	日本化学会誌, 電気化学会誌, 高専学会誌	

(出典 本校ウェブサイト及び学生課資料)

教職員の研究活動記録
平成 23 年度 (抜粋)

教職員の研究活動記録 (平成 22 年 1 月～平成 22 年 12 月)

所属 氏名	著書, 学術論文等の名称	単著, 共著 の別	発行所, 発表雑誌等又は 発表学会等の名称	著者名
教養教育科 奥 貞二	西洋思想研究(古代ギリシア)	単著	鈴鹿工業高等専門学校紀要, 第 4 3 巻, pp.1-9 (2010)	
西岡 将美	新入生「国語」学力診断検査の結果分析 - 新入生の「国語力」を探る -	単著	鈴鹿工業高等専門学校紀要, (2010.3)	
西岡 将美	特別指導を導入した四輪無許可通学指導	共著	平成 22 年度高専教育講演論文集, pp.157-160	下古谷博司, 川口雅司
西岡 将美	今どきの高専生 - 「不確実性の時代」、高専生は何を学ぶべきか -	単著	平成 22 年度高専教育講演論文集, pp.33-36	
西岡 将美	和弓の構成部材境界部に発生するせん断応力について	共著	スポーツ産業学研究 Vol.20,No.2(2010),pp.149-157	末次正寛, 辻 正利
久留原昌宏	『原生林』における改作についての一考察	単著	氷原, 第 39 巻 7 号, pp.16-17 (2010, 7) 〈前田夕暮特集 X X III〉	

平成 19 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou40/071.pdf>

平成 20 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou41/12.pdf>

平成 21 年度

http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou42_forWEB/42_15.pdf

平成 22 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou43/63.pdf>

平成 23 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou44/44.pdf>
pp.135-167

(出典 本校ウェブサイト)

平成 22 年度 学生の外部発表記録 (抜粋)

クラス	氏名	発表(論文)題目	単著・共著の別	著者名	発表雑誌等又は発表学会等の名称	主催	発表年月日
1D	大西悠揮	ポリカーボネート板の延性-脆性破壊遷移現象について	共著	末次・大西	日本機械学会年次大会講演論文集, Vol.1, pp.181-182.	日本機械学会	平成22年9月6日
1D	小形 遼平	ダイレクトモーターカーの構造の違いによる運動特性の解析	共著	小形, 白井, 富岡	ロボティクス・メカトロニクス学術講演会2010	日本機械学会	平成22年6月16日
1D	浅野 圭佑	ダイレクトモーターカーの運動特性の解析	共著	浅野, 白井, 富岡	ロボティクス・メカトロニクス学術講演会2010	日本機械学会	平成22年6月16日
1B	鎌倉 渚	高密度格子欠陥を有するサブミクロン結晶粒純Feの窒素固溶による高機能化	共著	鎌倉 渚, 黒田大介, 鈴木拓哉, 戸高義一	豊橋技術科学大学平成21年度高専連携教育研究プロジェクト成果報告会	豊橋技術科学大学	平成22年8月20日
1B	鎌倉 渚	冷却水系統における種々の金属材料へのバイオフィルム形成	共著	鎌倉 渚, 黒田大介, 生貝 初, 兼松秀行, 小川亜希子	CAMP-ISIJ, Vol. 23, pp. 672-673.	日本鉄鋼協会	平成22年9月26日
1B	鎌倉 渚	表面改質した鉄鋼材料の微生物腐食特性	共著	鎌倉 渚, 黒田大介, 生貝 初, 小川亜希子, 兼松秀行	日本機械学会年次大会講演論文集, Vol. 1, pp. 319-320.	日本機械学会	平成22年9月6日
2D	加藤良隆	アナログ電子回路による神経回路モデルのシミュレーション	共著	加藤良隆, 川口雅司	JASAG2010春季全国大会	日本シミュレーション&ゲーミング学会	平成22年6月12日
2D	加藤良隆	乗算回路によるアナログニューラルネットワークの製作	共著	加藤良隆, 川口雅司	電気関係学会東海支部連合大会	電気学会東海支部	平成22年8月31日
2B	中川 元斗	バイオディーゼル燃料・反応速度論的解析によるMeOH削減	共著	中川 元斗, 澤田善秋	計測自動制御学会中部支部, 教育工学論文集, 第32号, (2009)(印刷中)	計測自動制御学会中部支部	平成21年11月7日
2B	中川 元斗	Synthesis of BDF by Glycerin Removal	共著	Y.Sawada, S.Yodoya, G.Nakagawa, T.Sim	Proceedings of the 11th Asia Pacific Confederation of Chemical Engineering Congress (APPChE 2010), Taipei, Paper No.553.6 pages(2010)	Asia Pacific Confederation of Chemical Engineering Congress (APPChE 2010)	平成22年10月8日
1D	藤川啓道	大気イオン源による空間電位計測値の光源による影響	共著	藤川啓道, 今井省吾, 岡亮太, 大津孝佳	電気関係学会東海支部連合大会	電気学会東海支部	平成22年8月31日
1D	藤川啓道	サブミクロンギャップでのオン/オフ放電による電磁波特性	共著	大津, 藤川, 岡田, 今井, 岡, 谷辻, 高井, 伊藤	電気関係学会東海支部連合大会	電気学会東海支部	平成22年8月30日
5E	今井省吾	大気イオン源による空間電位計測値の光源による影響	共著	今井省吾, 藤川啓道, 岡亮太, 大津孝佳	電気関係学会東海支部連合大会	電気学会東海支部	平成22年8月31日
5E	今井省吾	サブミクロンギャップでのオン/オフ放電による電磁波特性	共著	大津, 藤川, 岡田, 今井, 岡, 谷辻, 高井, 伊藤	電気関係学会東海支部連合大会	電気学会東海支部	平成22年8月30日
5S	松岡巧弥	固体酸によるオカラの液状化	共著	下古谷博司, 松岡巧弥, 下野晃, 岡枝義彦	第16回高専シンポジウム	高専シンポジウム協議会, 米子工業高等専門学校	平成23年1月22日
2D	福田尚人	噴霧液滴の蒸散効果による冷却システム	共著	藤松孝裕, 福田尚人, 鈴木孝司, 服部秀則	第19回微粒化シンポジウム文集, pp.107-112 (2010.12).	日本液体微粒化学会	平成22年12月21, 22日
2D	橋本良介	低電力機器用発電のための振動・回転変換装置	共著	橋本良介, 西村一寛	平成22年電気学会全国大会 2-119, Vol.2, p.132	電気学会	平成22年3月19日

(出典 学生課資料)

資料 9-1-⑤-6		
各教員の専門分野における研究成果を授業に取り入れ、教育の質の改善を行った具体例		
担当教員	授業科目	取り入れた内容と教育の質の改善を行った具体例
三浦 陽子	現代科学 I	<p><目標・改善方針>最前線の物理学の内容を紹介し、受講者の興味を喚起する。</p> <p><改善結果>全般的に改善した。</p>
伊藤 明	電子材料特論 (前期の前半)	<p><目標・改善方針>異なる出身学科の学生でも興味関心が持てるよう、実際の産業界での使用例や現在話題となっている技術を適宜紹介し、学生の興味関心がわくよう努力します。</p> <p><改善結果>受講生 7 名中、評価 2 以下を回答したのは延べ 2 人であった。</p>
西村 一寛	電子材料特論 (前期の後半)	<p>授業において、専門分野である磁気に関する電子材料の国内外の学会での動向などを紹介した。授業アンケートにおいて興味や関心、魅力的な授業についての項目が 4.3 となった。</p>
生貝 初	生体材料工学	<p><目標・改善方針>今年度から始まった科目であるので学生の理解度をみながら、分かりやすい授業をすることを心がける。また、パワーポイント資料をそのまま提示するだけでなく、文章や図を適宜パワーポイント資料の中に追加し板書のような形態を取り入れ、分かりやすくする。</p> <p><改善結果>できるだけ最先端の情報を取り入れ興味を持たせるようにできたと思う。特に学生側からの改善要望はなかった。</p>
小川 亜希子	生物化学工学 5C(前期)	<p><目標・改善方針>計算演習を多く取り入れて、生物化学工学に必要な考え方や実際の使用法が習得できるように努める。さらに、最新トピックスを取り上げ、関連企業の仕事に関心を持って今後の就職等に活用できるようにしている。</p> <p><改善結果>演習を増やした結果、学生の理解度に向上がみられた。</p>
S 科全教員	材料設計学	<p><目標・改善方針>これまで学習した材料工学の知識を新材料の設計にどのように役立たせられるか、多くの具体例を示して基礎と応用との関わり合いをわかりやすく説明する。また、最近話題となっている新材料の実物に触れられるよう、教材の手配・収集に力を注ぐ。</p> <p><改善結果>授業アンケートにおいて興味や関心、魅力的な授業についての項目が 4.3 となった。</p>

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ及び学生課資料 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

教育研究、学術研究とも不断に行われており、その研究活動により得られた知見等は授業方法の改善や卒業研究・特別研究へ反映されている。

以上のことから、研究活動が教育の質の向上に十分寄与しているといえる。

観点 9-2-①: ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

資料 9-1-①-1 のように、FD部会が設置され、資料 9-1-①-2 のような規則、役割となっている。

このFD部会が中心となって、毎年、学生による授業アンケート結果を受けて改善を要すると判断した評価項目に対し、個々の教員は改善の方針を学生に示している（資料 9-1-④-1）。さらに、この結果で高い評価を得ている授業科目を一覧（資料 9-1-④-2）にして、毎年授業公開を実施しており（資料 9-1-①-11）、平成 23 年度からは前期と後期の 2 回実施している（資料 9-1-②-2）。授業を参観した教員が自分の授業に取り入れたい点や気づいた点をアンケートに書き込み、その授業担当教員に返している（資料 9-2-①-1）。公開された授業への教員の参観状況（資料 9-1-①-12）は、平成 23 年度は一人平均 2 授業である。さらに、授業アンケート結果及び公開授業の報告は本校広報誌「鈴風」に掲載している（資料 9-1-②-14）。また、毎年 FD 講演会（資料 9-2-①-2）を開催し、講演で取り上げられた話題のひとつである moodle については、授業で活用するなど教育改善にも役立っている。この他にも、教育・研究活動報告書（資料 9-1-②-1）でも教育改善結果を報告している。

教職員提案制度（資料 9-1-①-7）によって、教職員のニーズを汲み上げている。

資料 9-2-①-1

平成 22 年度 公開授業アンケート回答例（抜粋）

- ・学生とのやりとりを時々入れると、学生が少し緊張してやる気が増すのではないかと思います。
- ・板書の文字は十分大きくて見やすいと思います。板書される際に、黒板を縦線で左右に 2 分割あるいは 3 分割して書かれると、学生も流れを追いやすくなり、板書がさらに見やすくなるように感じます。
- ・「答案返し=ざわつく」なので、授業の初めには私はやらないようにしています。
- ・授業内容を確認できる練習問題のプリントを授業毎に配布されているようで、学生は自分の能力を確認できるとともに、授業で修得した知識をすぐ実践できる点が参考になりました。
- ・学生と一緒に問題を解く方法が参考になった。
- ・学生への指名カードを使ってランダムにあたるようにすることで、学生の緊張感を保つことが出来ていた。

（出典 学生課資料）

資料 9 - 2 - ① - 2

平成 23 年度 FD 講演会の内容・方法、実施・参加状況

平成 23 年度

日 時 平成 24 年 3 月 12 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 30

会 場 第一会議室

対 象 全教員・技術職員

講 師 市坪 誠先生 (独立行政法人国立高等専門学校機構 本部事務局 教育研究調査室)

題 目 国立高専機構における技術者教育の質保証

ーモデルコアカリキュラムー

- 内 容
1. 高専を取りまく状況について
 2. 教育課程の高度化の動向について
 3. 高専のモデルコアカリキュラムについて
 4. 適用事例について

参加状況 68 名 (教員 51 名, 技術職員 12 名, 職員 4 名)

資料 9-2-①-2 続き

平成 19 年度から平成 22 年度の FD 講演会の内容・方法, 実施状況

平成 19 年度

日 時 平成 19 年 8 月 28 日 (火) 15:00~15:30

場 所 視聴覚室

講 師 FD 部会長 近藤一之 教員

内 容 過去 4 年間の学生授業アンケート結果にみる
授業改善のまとめ

参加者 教職員 49 名

平成 20 年度

日 時 平成 21 年 3 月 24 日 (火) 午前

場 所 視聴覚室

講師&内容

電気電子工学科	柴垣 寛治先生	「短時間オンラインコンテンツ制作による授業 改善への取り組み」
	(共著者: E 科西村一寛先生、 S 科兼松秀行先生)	

教養教育科	大貫 洋介先生	「数学の授業における学習意欲の向上の実践に ついて」
-------	---------	-------------------------------

教養教育科	仲本 朝基先生	「私の授業の進め方」
-------	---------	------------

電子情報工学科	青山 俊弘先生	「なぜ Moodle を採用したのか？」
---------	---------	----------------------

機械工学科	白井 達也先生	「Education2.0 / まずは Moodle を使ってみて 下さい」
-------	---------	---

材料工学科	黒田 大介先生	「学生の視点からの授業進行」
-------	---------	----------------

生物応用化学科	澤田 善秋先生	「化学工学系授業はどうしたら分かり易くでき るのか ~卒業生・学生アンケートに見る授 業改善~」
---------	---------	--

参加者 教職員 66 名

資料 9-2-①-2 続き

平成 21 年度

(1) FD 講演会

日 時 平成 22 年 3 月 17 日 (水) 10:00~12:00

場 所 情報センター第 1 演習室

内 容 授業事例紹介
教材作成事例紹介
Moodle 活用チュートリアル

(2) Moodle コース作成講習 (希望者対象)

日 時 3 月 17 日 (水) 13:30~

場 所 情報センター第 1 演習室

※準備の都合上、参加を希望される方は、事前に教務係へお知らせいただけると幸いです。
(当日の参加希望も受け付けます。)

参加者 教職員 47 名

平成 22 年度

日 時 平成 23 年 3 月 8 日 (火) 13:00~15:00

会 場 第 1 会議室

対 象 全教員・技術職員

講 師 北野 健一 先生 (大阪府立高専 一般科目理系化学 准教授)

題 目 「あなたの教育にかける思いを教えてください
ーティーチング・ポートフォリオの紹介ー」

内 容 ティーチング・ポートフォリオについての説明と簡易版のワーク

参加者 教職員 76 名 (教員 63 名, 職員 13 名)

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

毎年、全教員が授業を公開し教員相互が教育方法等を研修する授業公開を実施している。また公開された授業を参観している。学生による授業アンケート結果に基づき、教員自ら授業改善の方針を決め、その改善策を公開授業の参観により入手し、それを考慮しながら授業を行うという形態で、改善を図っている。

以上のことより、ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で十分に実施しており、教育の質の向上や授業の改善に十分結びつくなど機能している。

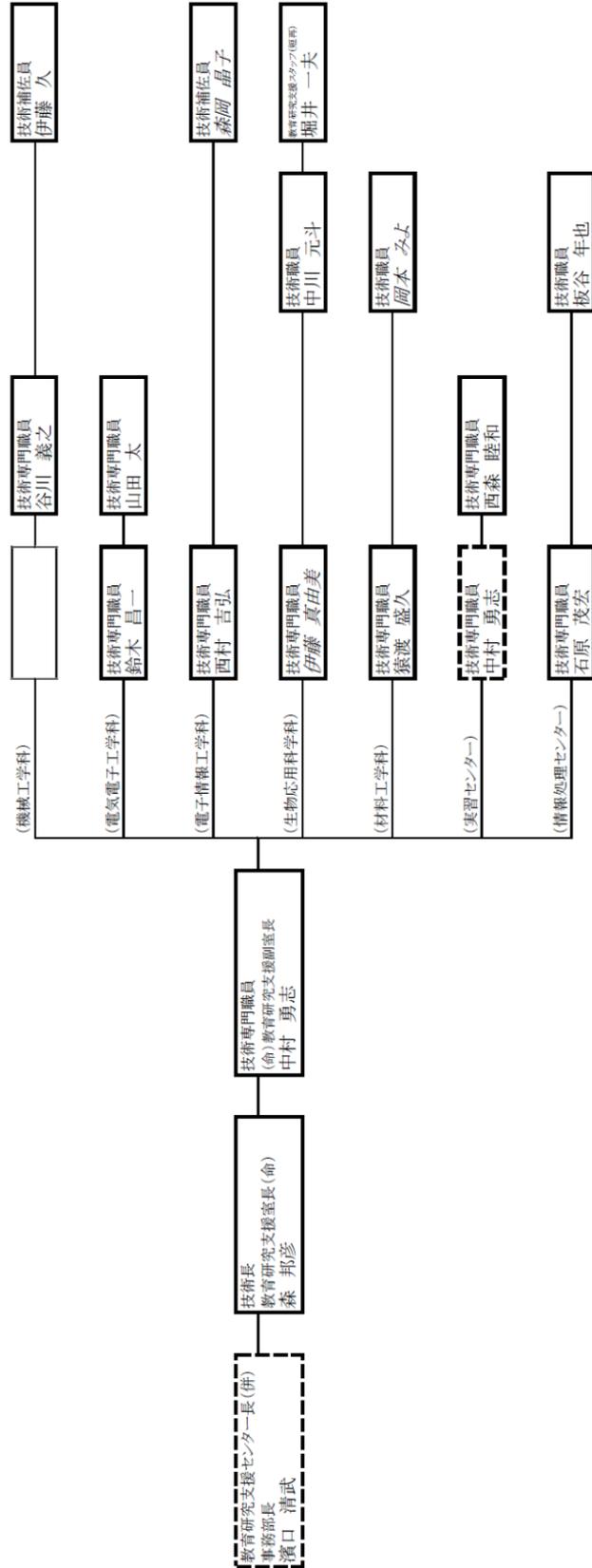
観点 9-2-②： 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

教育支援者等は、資料 9-2-②-1 のような組織で、資料 9-2-②-2 の規則によって運営されている。そして、研修 (資料 9-2-②-3) や教育研究活動 (資料 9-2-②-4) を実施し、その資質の向上を図っている。さらに、毎年年度末に活動報告会を実施し、活動報告書にまとめている (資料 9-2-②-5)。

平成 24 年度教育支援者の組織図

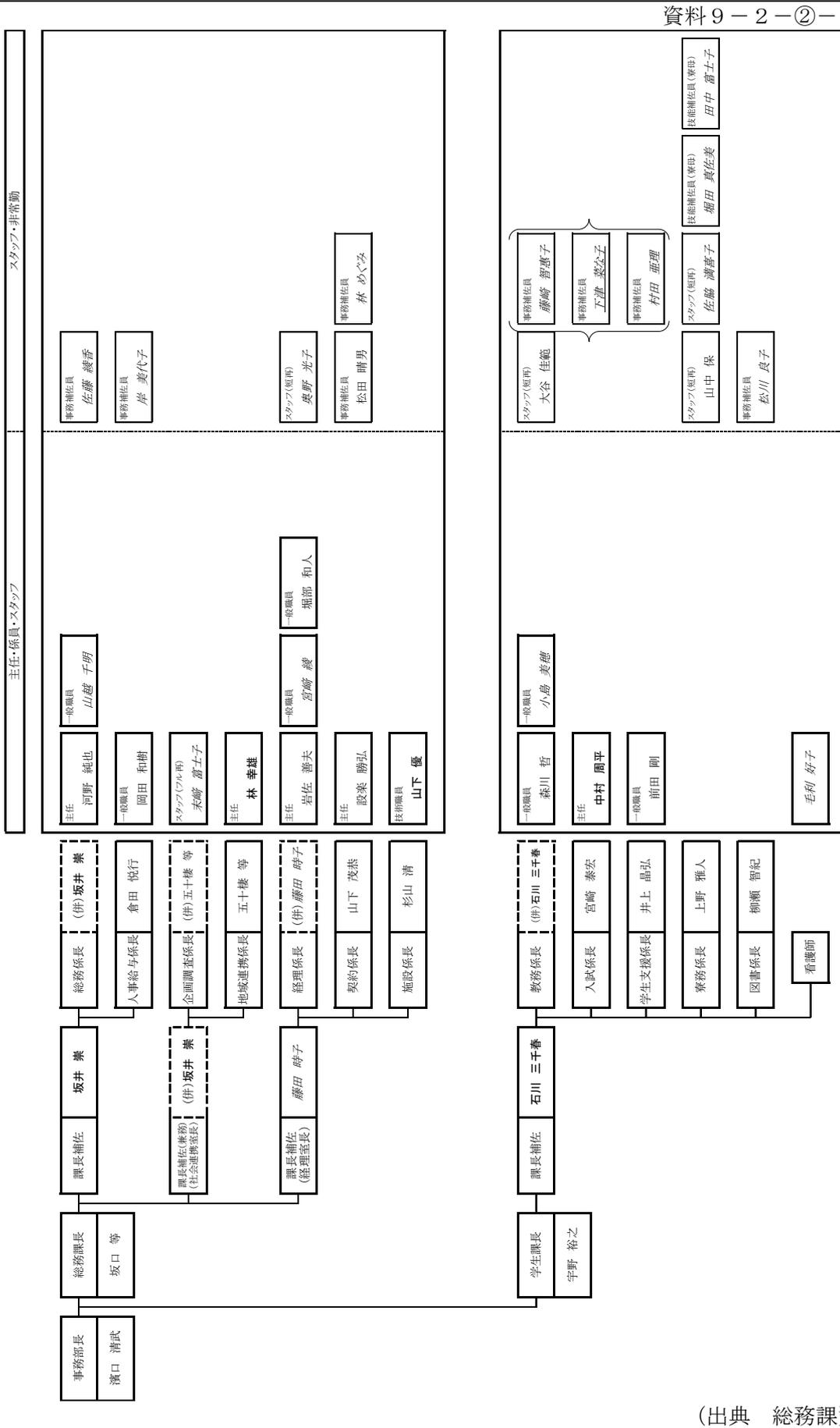
鈴鹿工業高等専門学校教育研究センター組織図(平成24年4月1日現在)



技術専門職員
澤辺 昭廣

※

鈴鹿工業高等専門学校事務部職員組織図(平成24年5月1日現在)



資料 9-2-②-1 続き

(出典 総務課資料)

教育支援者の関連規則

(総務課)

第 10 条 企画調査係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
- (2) 中期目標、中期計画等の策定及び活動報告等に関すること。
- (3) 教育改善及び学校運営システムの調査に関すること。
- (5) JABEE プログラムに関すること。(学生課の所掌に属するものを除く。)

(学生課)

第 16 条 教務係においては、次の事務を分掌する。

- (17) JABEE プログラムに関すること。
- (18) その他教務に関すること。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 事務組織及び事務分掌規則 抜粋)

教育研究支援センター規則

(目的)

第 2 条 教育研究支援センターは、技術・技能を要する業務を行うことにより、本校における教育研究等の業務を支援する。

(業務)

第 9 条 教育研究支援室においては、次の業務を分掌する。

- (1) 学生の実験・実習及び卒業研究等の技術指導に関すること。
- (2) 教育研究の支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
- (3) 技術の継承、保存及び開発に関すること。
- (4) 技術研修に係る調査研究に関すること。
- (5) 実験室及び実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。
- (6) 学校共通業務に関すること。
- (7) 産学官連携業務、受託事業等のプロジェクトに関すること。
- (8) その他技術業務等に関すること。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 教育研究支援センター規則 抜粋)

平成23年度教育支援者等の研修の実施状況

No.	研修名称	研修区分	主催者区分	主催者	実施日時		参加者数	
					開始日	終了日	教員	教員以外
1	平成23年度新任教職員等研修会	1.自己啓発	1.国立高専	鈴鹿高専	H23.4.4	H23.4.4	5	3
2	平成23年度国立高等専門学校機構初任教職員研修会	3.職位	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.6.20	H23.6.22		3
3	平成23年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会	7.技術職員	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.8.24	H23.8.26		2
4	平成23年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(物理・化学コース)	7.技術職員	4.国立大学法人	国大協及び東海・北陸地区国立大学法人	H23.8.31	H23.9.2		1
5	平成23年度国立高等専門学校機構IT担当研修会	7.技術職員	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.7.25	H23.7.29		1
6	平成23年度高等専門学校新任教職員研修会	3.職位	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.8.29	H23.8.31		6
7	平成23年度就職キャリア支援教職員研修会(基礎コース)	2.学校運営・ありかた	6.独立行政法人	(独)日本学生支援機構	H23.8.31	H23.9.2		1
8	平成23年度東海・北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会	3.職位	1.国立高専	沼津高専	H23.9.7	H23.9.9		3
9	平成23年度東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修会	7.技術職員	1.国立高専	石川高専	H23.8.1	H23.8.3		2
11	平成23年度東海地区国立大学法人等係長研修会	3.職位	4.国立大学法人	名古屋大学	H23.8.25	H23.8.26		3
12	平成23年度東海・北陸地区メンタルヘルス又研究協議会	16.保健・看護・メンタルヘルス	4.国立大学法人	福井大学	H23.9.8	H23.9.9	1	1
16	平成23年度豊橋技術科学大学技術講座技術者養成研修会	7.技術職員	4.国立大学法人	豊橋技術科学大学	H23.10.5	H23.10.5		1
17	平成23年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(複合領域コース)	1.自己啓発	5.大学共同利用機関	核融合科学研究所	H23.11.9	H23.11.11		2
18	平成23年度東海地区国立大学法人等目的別研修(マネジメント力向上研修)	1.自己啓発	4.国立大学法人	愛知教育大学	H23.10.27	H23.10.28		1
20	平成23年度国立高等専門学校機構施設担当職員研修会	6.施設業務	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.10.17	H23.10.18		1
21	平成23年度独法簿記研修会	4.会計	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.10.26	H23.10.28		2
22	平成23年度国立高等専門学校機構新任課長補佐・係長研修会	3.職位	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.11.17	H23.11.18		4
23	平成23年度ネットワーク研修会	9.情報技術	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.12.26	H23.12.27	1	1
24	平成23年度学務関係職員研修会	12.学生・留学生指導	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.12.8	H23.12.9		1
25	平成23年度契約事務研修会	4.会計	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.11.14	H23.11.16		1
26	平成23年度国立高等専門学校機構中堅職員研修会	1.自己啓発	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H23.12.8	H23.12.9		1
27	第8回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究会	16.保健・看護・メンタルヘルス	1.国立高専	国立高等専門学校機構	H24.1.26	H24.1.27	1	1

(注) 単務課資料

教職員の研究活動記録
平成 23 年度 (抜粋)

166

所属氏名	著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	著者名
教育研究支援室 森 邦彦	高専等を活用した中小企業人材育成事業	共著	Journal of JACT, Vol.15, No.3, pp.103-106, 2010	森邦彦, 中村勇志, 鈴木昌一, 谷川義之, 板谷年也, 山田太, 澤辺昭廣, 猿渡盛久, 河野純也, 西村吉弘, 西森睦和, 宮崎みよ
森 邦彦	鈴鹿高専におけるエンジニアリングデザイン教育と産学官・地域連携	共著	全国国立高専テクノフォーラム口頭発表, 第 8 回全国高専テクノフォーラム予稿集, pp.46, 2010.08, 大分	森邦彦, 埜克己, 齊藤正美
澤辺昭廣	高専等を活用した中小企業人材育成事業	共著	Journal of JACT, Vol.15, No.3, pp.103-106, 2010	森邦彦, 中村勇志, 鈴木昌一, 谷川義之, 板谷年也, 山田太, 澤辺昭廣, 猿渡盛久, 河野純也, 西村吉弘, 西森睦和, 宮崎みよ
中村勇志	高専等を活用した中小企業人材育成事業	共著	Journal of JACT, Vol.15, No.3, pp.103-106 (2010)	森邦彦, 中村勇志, 鈴木昌一, 谷川義之, 板谷年也, 山田太, 澤辺昭廣, 猿渡盛久, 河野純也, 西村吉弘, 西森睦和, 宮崎みよ
鈴木昌一	高専等を活用した中小企業人材育成事業	共著	Journal of JACT, Vol.15, No.3, pp.103-106 (2010)	森邦彦, 中村勇志, 鈴木昌一, 谷川義之, 板谷年也, 山田太, 澤辺昭廣, 猿渡盛久, 河野純也, 西村吉弘, 西森睦和, 宮崎みよ

平成 19 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou40/071.pdf>

平成 20 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou41/12.pdf>

平成 21 年度

http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou42_forWEB/42_15.pdf

平成 22 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou43/63.pdf>

平成 23 年度

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/kiyou44/44.pdf>

pp.135-167

(出典 本校ウェブサイト)

平成 22 年度教育研究支援室活動報告書 (抜粋)

H22 年度教育研究支援室活動報告書

平成 23 年 03 月 30 日

独立行政法人国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校
教育研究支援センター 教育研究支援室

資料 9-2-②-5 続き

1. 人員構成：

技術長 = 1 名
 技術専門員 = 0 名
 技術専門職員 = 11 名 (1)
 技術職員 = 2 名 (1)
 再雇用 = 1 名 (1)
 技術補佐員 = 1 名 (1)
 計 16 名 (3) () 内は女性職員の内数

- 1) 配置換： なし
- 2) 発令： 教育研究支援室副室長 中村勇志 (平成 23 年 4 月 1 日付)
 休職 澤辺昭廣 技術専門職員 (平成 24 年 2 月 8 日付)
- 3) 昇任： 西森睦和 技術専門職員 (平成 23 年 4 月 1 日付)
- 4) 採用： 中川元斗 技術職員 (平成 23 年 4 月 1 日付)
 堀井一夫 再雇用 (平成 23 年 4 月 1 日付)
 森岡晶子 技術補佐員 (平成 23 年 4 月 1 日付)
- 5) 退職： なし
- 6) その他： 永年勤続者表彰 西村吉弘 技術専門職員
 永年勤続者表彰 谷川義之 技術専門職員

3. 教育研究活動支援要請書件数：

2012 年 3 月 13 日現在

学科等	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	備考
M	37	22	27	32	17	25	
E	3	6	11	7	2	6	
I	5	7	6	8	2	7	
C	6	13	11	6	5	5	
S	12	12	11	10	3	3	
一般	2	2	4	6	5	2	
専攻科	4	1	4	3	3	1	
共通	24	34	49	35	47	35	
計	93	97	123	107	84	84	

共通： プロジェクト、産学官連携、セミナー、事務等

資料 9-2-②-5 続き

6. 技術職員研修・発表：

昨年と同様に旅費の一部をエコ環境教育 GP，産学連携関連旅費などから負担頂いたことにより、予算の一部を CAD など民間企業研修に充て、技術職員の資質向上、業務改善に割り当てた。

1) 高専・大学等研修・発表会・会議

以下の 12 つの研修・発表会・会議に参加・受講した。

①立高専機構情報処理関連説明会（東京）

高専機構本部 6月2～4日（水～金）石原

②東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修(岐阜)

岐阜高専 8月4～6日(水～金) 鈴木、宮崎

テーマ：「高専のPR活動について」

公開講座・オープンキャンパス・高専見学会・出前授業・サイエンスワールド・地域貢献・ロボコン・人材育成（外部または内部）など、技術職員が主催または支援していること

③高専テクノフォーラム（大分）

大分コンパルホール 8月18日(水), 19日(木) 森

発表テーマ：「鈴鹿高専におけるエンジニアリングデザイン教育と産学官・地域連携」

④東海北陸地区技術長連絡会議(鈴鹿)

鈴鹿高専 8月25日(火), 26日(水) 森

⑤西日本地域国立高専機構技術職員特別研修会(情報処理系／豊橋)

豊橋技科大 8月25日(水)～27日(金) 石原

⑥高専学会(長岡)

長岡技科大 8月27日(金)～30日(月) 鈴木、板谷

⑦東海・北陸地区国立大学法人等技術職員研修(生物・生命系／三重)

三重大 7月27日(水)～7月30(金) 堀井

⑨技術職員の能力開発セミナー(東京)

北陸先端科学技術大学院大学品川キャンパス 1月28日(月) 森

⑪東海・北陸地区国立大学法人等技術職員研修に係わる技術職員代表者会議(名古屋)

名古屋大学 2月28日(月) 森

⑫夢工考房プロジェクト発表会（金沢）

金沢工大 3月4日（金） 鈴木、西森

⑬技術者養成研修／OSG 寄付金講座：微細切削加工など（豊橋）

豊橋技科大 3月25日(金) 澤辺、中村

⑭二足歩行ロボット研修（和歌山）

和歌山高専 3月10日(木) 中村、谷川

*以下の研修については日程の都合が合わず参加できなかった。

- ・東海・北陸地区国立大学法人等技術職員研修（情報系／）
- ・機器・分析技術研究会（東京／東工大） 9月2日（木），3日（金）
- ・総合技術研究会（熊本／熊大） 3月17日（木），18日（金）

2) 企業等による研修・講習会等

以下の 5 つの企業研修・講習会に参加・受講した。

①オムロンシーケンサ研修 入門編(東京)、応用編(東京)

オムロン名古屋 7月8日(木), 9日(金) 鈴木

オムロン名古屋 9月2日(木), 3日(金) 西村

オムロン東京 10月7日(木), 8日(金) 山田

②ジュニパーネットワーク講習(東京)

8月5日(木) 石原

③電気工事士講習会(三重)

11月13日(土), 20日(土), 27日(土) 山田

④ソリッドワークス:初級(名古屋)

2月14日(月), 17日(木) 鈴木, 板谷

3) 学内(相互)研修・発表

以下の 6 つの内部講習会を実施、参加した。

①CAD/SolidWorks 講習会(初級 1)

日時: 4月28日(金)

場所: 情報処理センター

対象: 教職員(次回、プロジェクト学生向けサポート者ほか)

講師: 谷川、近藤(邦)先生、(システム: 石原)

受講者予定者: 中村、西森、鈴木、板谷、西村

②CAD/SolidWorks 講習会(初級 2)

日時: 5月6日(木)

場所: 情報処理センター

対象: 教職員・プロジェクト学生

講師: 谷川、近藤(邦)先生、中村、西森、鈴木、板谷

学生: ロボコン1年生+ソーラーカー学生+教職員(猿渡、森)

③CAD/SolidWorks 講習会(初級 2)

日時: 7月7日(水)

場所: 情報処理センター

対象: 学生

講師: 谷川、板谷、近藤(邦)先生、(システム: 石原)

受講者: ロボコン I 科学生

④CAD/SolidWorks 講習会(エコカー特別講師)

日時: 12/7(火)

場所: 情報処理センター

講師: 谷川(システム: 石原)

受講者: ソーラーカー学生, 自動車部

内容: 使える図面の作成, 事例(鈴鹿鉄道)も提示。

資料 9-2-②-5 続き

⑤夏季公開講座「環境とクリーンエネルギーを学ぼう」内部講習

日時：7月20日(火)

場所：E科1階実験室

講師：山田，谷川

対象：技術職員全員

⑥技術職員活動報告会

日時：3月18日(金)

場所：共同研究推進センター会議室

資料 06 参照

(出典 教育研究支援室資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育支援者等は、研修や教育研究活動など適切な取組が実施され、その資質の向上を図っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育の状況について、PDCAサイクルに則り点検・評価し、その結果に基づいて改善・向上を図る体制を整備し、取り組みを十分行っている。特に、授業実施記録、授業の改善報告などの文書の保管・管理体制やmoodleの活用など工夫がなされている。また、教職員の資質の向上を図るための取り組みとしてFD講演会を毎年継続して実施するなど十分にかつ適切に行っている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準 9 の自己評価の概要

本校は教育の質の向上及び改善のためのシステムとして、校長、運営会議、自己点検評価・改善委員会、教務委員会、点検評価部会と複合型生産システム工学プログラム推進部会からなる合同部会、専攻科分科会、FD部会、教員表彰選考部会、教育改善フォローアップ部会、さらに、外部評価として参与会、外部評価委員会を規則に基づき設置し、中期目標・中期計画の下、PDCAサイクルに則り活動し、毎年報告している。

これらに関する授業実施記録、各種アンケート、報告書等の保管は、事務部によって適切に保管され、公開授業をする上で学生の授業アンケート結果で評価の高かった教員がわかるように表にするなど工夫されている。前期と後期の年2回実施する学生による授業アンケート、および、公開授業の教員のアンケートの結果を受けて各授業担当者が改善内容を決め学内に公開し、その改善の成果が次の授業アンケート結果に現れるようになっている。さらに、教育・研究活動報告書にも学生による授業アンケート結果を分析し表にまとめている。非常勤においては、学生による授業アンケートが実施されているが、公開授業については了解が得られれば実施するに留まっている。全ての授業において実施した学生による授業アンケート結果は、評価が低い授業に関しては教育改善フォローアップ部会が参観するなど授業改善を促している。この他にも毎年、学生による達成度・満足度評価をmoodleに

よって実施し、さらに学生との意見交換会を行って学生からの意見聴取を行い、授業に対する満足度・要望を調べている。その結果や教職員提案制度および学外関係者からの意見を取り入れて、PDCAサイクルに則り継続的に改善している。

学生や教員相互評価による顕彰制度が設けられている。

教育研究活動の成果は、論文集「高専教育」及び研究紀要に発表され、これらの研究で得られた知見は授業方法の改善に役立てられている。また、その研究活動により得られた新しい知見等は学科の創造工学や卒業研究、専攻科の特別研究へフィードバックされ、その成果により学生の外部発表も活発に行われている。それに、研究成果を授業に取り入れたことによる改善例などを通じた教育の質の改善が行われている。FD講演会が毎年実施され、職員も含む教職員が参加し、継続的に授業改善が意識できるようになっている。教育支援者についても研修などが行われ、その資質の向上を図るための取り組みが実施されている。

